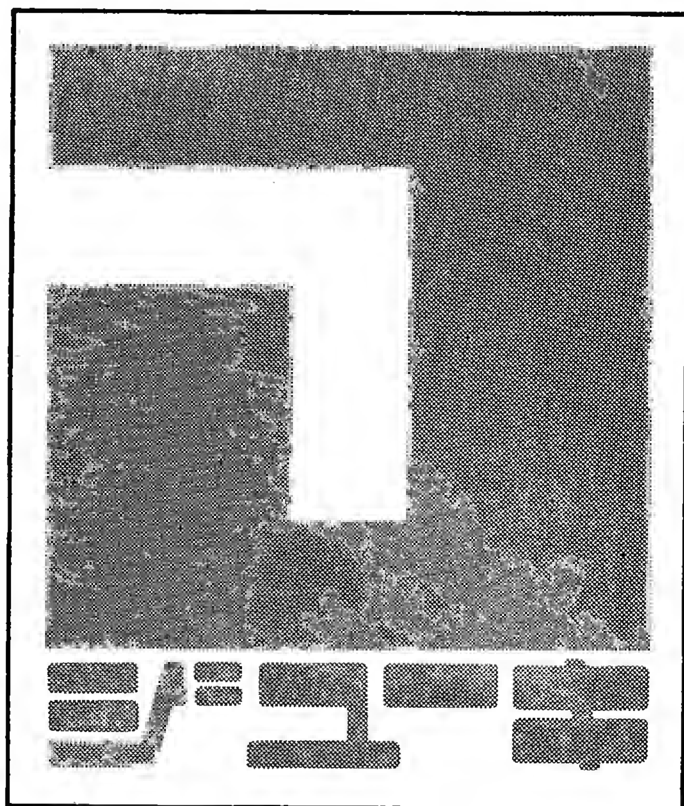
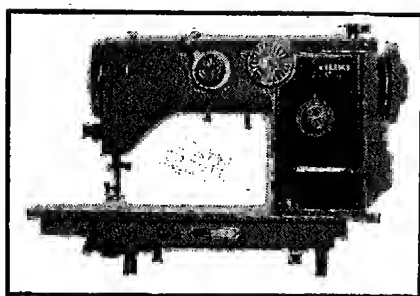
ミシンはマークで
お選び下さい





*HZD－956*型
ダイカスト・フルオートジグザグ

東京重機工業株式会社
本社工場 東京都調布市国領町8丁目2番地ノ1電話（480）1111番(大代表)

ハンドボール「第62号目次」

昭和44年3月号

表紙写真　実業団選手権
大洋デパート―田村紡戦から
（於横浜文化体育館）

ニコンF　50mm/2
5.6/125　Tri X
（ASA1000に増感）

時評

田村新会長に期待する

▽……1年2ケ月にわたって空席の会長の座にようやく主を迎えることが成った。

田村正衛 新会長。うってつけの人である。卒直にいって、今、日本ハンドボール界は「外」から会長を招くような事態ではない。

かってない「チャンス」でもあり、また「ピンチ」にも立たされているからだ。

即ち、一九七二年のミュンヘンオリンピックの実施という朗報に湧きたちながらも斯界にとっては、なにぶん初めての経験。問題が山積しているのである。

昨年6月に発足した新機構も軌道にのっているとはいえないし、選手強化対策本部もやつと歩きはじめたところだ。

このような時期に上に立ち、球界を代表するのは事情に通じたかたに限る。

ましてや、1年余も会長のポストはあけつぱなしにしていたのである。

▽……田村新会長は学生時代から水泳畑を歩いて来られた根つからのスポーツマン。15年ほど前に三重県体協会長に推され名会長の名を高めながら現在にいたっている。もちろんスポーツ界に知己も多い。

女子ハンドボール界の強豪田村紡（三重）の社長であることは周知のとおりだ。

性格は豪放、小がらなからだいっぱいに斗志をみなぎらしているかただ。

国体では三重県団長として開会式ではつねに県旗につづいて行進される。三重の県旗は白地に赤い伊勢エビが躍る図柄だが、田村氏の勇姿は、その意気にピッタリだ。

▽……いささか、もたつきが目につく昨今の日本ハンドボール界で田村会長の〝豪快な突進〟はまさに特効薬となろう。

『社会にはつねに〝和〟がなければいけない』というのがモットー。これも斯界にとっては不足がちだけに、大同団結のために氏がどのような手腕を発揮されリーダーぶりを示されるか興味深い。

本誌などでも再三アドバイスしているように、三年後のオリンピックでハンドボールが行われるといっても日本が参加できるという保証はひとつもない。

球界あげて来年の世界選手権に出場する代表チームを支援することが必要だし、その後もオリンピックを狙うにふさわしい球界に発展充実するように努力をつづけなければならない。

そのためには、国内全関係者が心を一にして突き進むのが唯一無二の道である。

▽……そのさい配をふるう日本協会執行陣の強化がコトの成否をにぎる重大なポイントであることは多言を要すまい。

信頼するに足る執行陣が確立されてこそ全国の思想統一が果されるのだ。

田村会長をまちかまえるこれからの道はけして平担ではなかろう。

しかし、あともどりは許されない。

会長の独走でもよい。思い切った手段と対策をこうじて斯界が史上初めて直面した大課題の成就に全力をつくしていただきたい。

1年2ケ月ぶりに迎えた新会長のもとに全国関係者もあらためて〝挙国一致〟を誓いあおうではないか!!

（S・S）

田村会長の歴略

◇田村正衛（たむら・まさえ）田村紡績社長。明治39年1月生まれ三重県出身。同志社大卒。現三重県体育協会長。

ハンドボール界との結びつきは昭和36年4月、自社にハンドボールチームを発足させた時にはじまる。その後三重協会長（日本協会評議員）、全日本実連常任理事などに推され、昨年12月の世界女子選手権（流会）には団長として参加する予定だった。

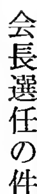
ハンドボールへの関係は比較的浅いわけだが、それ以前は同志社大水泳部の創立者として知られ、昭和29年から現在まで三重県体協会長として地方体育界の振興に貢献、多くの業績を残している。

写真家としての腕もかなりで二科会々友。日本写真協会理事、全日本写真連盟中部委員などをつとめ、欧米へ4回撮影取材旅行に出かけられている。

会長に田村正衛氏（田村紡社長）

ナショナルチームがヨーロッパ遠征に

全国評議員会
—2月・東京—
全国理事会



昭和四十四年度の主要行事を決めるための定例全国理事会・評議員会は二月十五日（土）・二月十六日（日）に日本体育協会で開かれた。まず会長に田村正衛氏を推挙し、決定した。また日本協会加盟の全国組織として全日本教職員ハンドボール連盟の加盟が認められた。従来の全日本実業団ハンドボール連盟、全日本学生ハンドボール連盟、全国高等学校体育連盟ハンドボール部会に加えて、四つめの全国団体が誕生したことになる。ミュンヘンをめざす第1の大きな関門とされている第7回世界選手権大会への強化が具体的に力強く進められることになった。ここ数年は「強化」を唯一無二の目標として、力をここに結集していくことが確認されこのチームを約一ケ月半ルーマニアを中心としたヨーロッパ遠征させることが決定した。

会長選任の件

鈴木会長退任後、空席となっている会長の座に従来から、早く会長をの声は強かったが、今回の評議員会で、田村正衛・田村紡績社長に決定した。5代目にあたる。

また副会長の六人はあくまでも暫定的なことであったので、この際、三人ぐらいにしてはとの意見が尊重された。また、副会長は組織から出るのでなく、人というのが原則であるとされ、保坂周助西敏郎、渡辺和美の三氏が副会長に留任した。

体協派遣役員は体協評議員に田村会長、国体委員に新理事長、(3月16日に決定）JOC委員に渡辺副会長、競技力向上委員に西副会長が決定した。

全日本代表チームの件

1月21日〜26日の6日間、既報のような四十人の第一次候補選手を集めて行なわれた第一次全日本代表チーム合宿の結果、強化本部によって推薦された別掲の十七人の選手が、第二次候補選手として指名された。また、役員も強化本部員から指名され、監督に村田弘氏（強化本部員・大阪イーグルス監督）、コーチに勝繁夫氏（強化本部員・全立教大学監督）竹野奉昭氏（強化本部員・大崎電気監督）が選ばれた。

選手は技能面、体力面、心理面などあらゆる観点からの測定を第一次合宿中追跡調査され、その結果を総合して、選定されたものであり、国際試合に立派に通用していくであろうことを主眼目に選ばれた。

国際試合にということで、長身選手が数多く選ばれた結果、平均身長一七七・九糎、平均体重六八キロとかってない大型チームができあがっている。

このナショナルチームを昨年10月に渡辺副会長が滞欧中にとりきめてきたルーマニア遠征へ送ることが決定された。

この遠征は4月15日に日本を出発し、約一ヶ月半ルーマニアで強化合宿を行なうとともに、同地で地元チームと多くの試合を行ない強化に努めることになっていたが現在この日程を変更し、できることなら、七月上旬にユーゴスラビアで行なわれるナショナルチームが集る大会であるところの「タスマジャンカップトーナメント」に出場できるように交渉中である。もし、この日程の変更ができるならば、ナショナルチームは、5月15日頃、日本を出発し、ルーマニアで充分の強化をつんだ後、ユーゴでの大会に出場し、ヨーロッパの各ナショナルチームと対戦し、大いに力をつけるとともに、日本の弱点を見つけ、残された月日のうちにこの弱点を解消するように努力することになろう。

昨年、第4回女子世界選手権のためいち早く全日本を作り、好評を博したが、今回はさらにメンバーを早く決定するとともに、重点施策とし、海外遠征を計画するなど大いに強化に努めることとなった。その成果が大いに期待されるとともに、その重責をになった日本協会、強化本部、役員、選手の

第7回世界男子7人制ハンドボール選手権
全日本代表第2次候補選手及び役員

監督	村田　弘		
コーチ	勝　繁夫		
	竹野奉昭		
GK（3名）	本田　洋	（日体大）	178cm
	福本　弘	（大崎電気）	173
	下里敏彦	（大崎電気）	184
FP（14名）	藤中憲二	（日体大）	177
	早川清孝	（日体大）	179
	野田　清	（全立大）	169
	東　一敏	（全立大）	179
	有永修二	（全立大）	186
	木野　実	（全立大）	180
	竹野奉昭	（大崎電気）	174
	井上素行	（大崎電気）	170
	近藤信行	（大崎電気）	170
	飯田誠行	（大崎電気）	188
	近藤克彦	（大崎電気）	181
	北井晴次	（埼玉教員）	175
	平岡秀雄	（東教大）	183
	中井武三	（同志会大）	179

責任はきわめて重いといわなければなるまい。関係者一丸となった強化が大いに望まれる。

強化本部では、この海外遠征とともに、3月下旬の第2次合宿、4月から5月の第3次合宿、9月の第5次合宿、11月の第6次合宿12月の第7次合宿、1月の第8次合宿を東京オリンピックセンターで行なうとともに、7月もしくは8月に国内遠征合宿を九州から東北までの各地で行なう予定にしている。

このほかナショナルチーム候補選手の居住地が東京近郊に比較的集っているので、週2回ぐらいは一堂に会して練習をする予定にしている。合宿などの細部に関しては、選手団に一任していくことも確認された。

なお、強化対策本部では第2次候補にもれた第1次候補23名を「全日本B」（仮称）として残し、夏までに1～2回の国内合宿を行いたい意向をもっている。

国内行事日程

国内行事日程は例年通りに決定されたが、全日本学生は王座が廃会になった関係上、例年通り7月に開かれるか、王座が行なわれていた時期に移るかはっきりとは決定されていない。これは、全日本学連の新役員が揃いしだいそこではっきりと決定されることになっている。種々の条件から、11月に開催したほうがとの声も強いがはっきりした決定にはなっていない。

今年も従来通りの大会が並び、大会の整理統合はできなかったがよりよい大会開催に一歩でも、一日も早く近づくことが望まれてよう。

予算・決算関係

昭和42年度の決算（本誌既報）が認められ、44年度一般会計、機関誌会計の予算も認められた。

44年度の一般会計の予算は新役員が決定していないので、大ワクだけの予算であるが、各部から出された多額の予算を整理し、来年度の最重点施策である強化にその大部分が向けられることとなった

このほかに、ルーマニア遠征、第7回男子世界選手権大会と二度の海外遠征に従来の協会の繰越金を使用することも認められた。

この協会の繰越金の使用は、1972年のミュンヘン・オリンピックがハンドボール界が誕生以来初めて迎えた大きなチャンスであるということで、この際一丸となって強化すべきであるとの意向から認められたものであり、従来にない大型の予算になる。

実行予算は新役員が決定した後に、それぞれのワク内でやりくりし、決定することになろうが、強化以外の各分野はここ一・二年、緊縮財政を余儀なくさせられる。

このようないきかたに対して、種々の意見もあろうが、強く、大きくなるためには、このような施策が強力に推し進められるべきであろう。

機関誌会予算はほぼ例年通りになっており、11回発行の予定である。種々の事情により、機関誌のほうも、ギリギリの緊縮予算ではあるが、充実した内容の機関誌が新スタッフによってお手許に届くことになろう。

一般会計では、この他にスポーツ資金財団関係の六十万円の収入がみこまれ、これは例年通り、各種大会に補助される見込である。

各部とも緊縮財政であるので、運営はかなりキビシイものになろうが、「強化」に最重点が置かれている以上やむを得ないものがあろう。有料競技会の開催による競技収入を考えるべき時期に来たともいえるだろう。

昭和44年度国内行事予定

大会	期日	場所
第19回全日本高校選手権	8月1日～8月7日	群馬県富岡
第21回全日本総合選手権	8月8日～8月12日	岩手県盛岡
第12回全日本教職員選手権	8月16日～8月18日	埼玉県上尾
男子第18回．女子第1回学生東西対抗	9月7日	名古屋市
第24回国民体育大会	10月26日～10月31日	長崎県
第16回全日本選抜選手権	12月16日～12月21日	東京都
第10回全日本実業団選手権	2月7日～2月11日	名古屋市
男子第12回．女子第5回全日本学生選手権	7月もしくは11月*	東京都

*新役員によって期日を決定する

昭和44年一般会計予算表

収入		支出	
加盟・登録金	180万円	総務	200万円
検定料	100万円	渉外	20万円
競技力向上費	200万円	審判	50万円
		普及	10万円
		強化・技術	200万円
合計	480万円		480万円

昭和44年度機関誌会計予算表

収入		支出	
講読料	2,000,000	印刷製本代	1,750,000
広告料	550,000	編集費	250,000
		人件費	350,000
		通信費	100,000
		消耗品費	20,000
		印刷費	60,000
		旅費・交通費	10,000
		予備費	10,000
合計	2,550,000		2,550,000

43年度ベストセブンを決定……日本協会

優秀チーム、最優秀選手選考委員会は、昭和43年度の優秀チーム最優秀選手を選考し、理事会の承認を得、次のように発表した。

優秀チーム

男子
1 全立教大学
2 日本体育大学
3 大崎電気

女子
1 大洋デパート
2 大崎電気
3 田村紡績

いずれも今年度の各種大会で最上位で活躍したチームが選ばれた。

昨年に続いてベストセブンに入ったのは、男子の木野、近藤、女子のGK渡辺美、FP新保、鈴木功、種村の6選手であった。

最優秀選手

＜男子＞

G.K	本田洋	(日本体育大学)
F.P	木野実	(全立教大学)
	近藤信行	(大崎電気)
	野田清	(全立教大学)
	東一敏	(全立教大学)
	早川清孝	(日本体育大学)
	井上素行	(大崎電気)

＜女子＞

G.K	渡辺美智子	(田村紡績)
F.P	新保郁子	(大洋デパート)
	渡辺須和子	(大洋デパート)
	枝尾清女	(大洋デパート)
	鈴木功子	(大崎電気)
	種村好子	(田村紡績)
	蓮見二三恵	(三菱鉛筆)

高校優秀選手も決る

全国高体連ハンドボール部会は、インターハイなどの資料をもとに昭和43年度全日本高校優秀選手を男女それぞれ15人を選び、次の通り発表した。下関中央工の山徳が2年のほかは全員3年生である。菊池農の全員が選ばれているのは大きな特色であろう。

（男子）

GK	山徳辰男	下関中央工
	柳川清	熊本市立商
	吉岡豊次	中央大附属
FP	高柳一夫	麻生
	岡田仁男	添上
	中村博之	堺工
	佐々木健一	明星
	広井憲司	下関中央工
	中川敏治	〃
	松岡猛	滝川
	坂本憲文	熊本市立商
	田上敬三	〃
	岸田孝	中央大附属
	花輪博	〃
	塚田恒夫	〃

（女子）

GK	松田みつ子	菊池農
	西条敏子	新居浜市立商
FP	志摩三枝	小諸商
	菊地明代	深谷女子
	浜島英子	名古屋女子商
	本地みち子	山陽女子
	飯笹恵美子	栃木女子
	水上百合子	菊池農
	村中佐千代	〃
	蔵田照美	〃
	田尻幸子	〃
	剣あつ子	〃
	村上明美	〃
	加藤浪子	新居浜市立商
	山本裕里江	〃

技術部44年度事業計画

▽資料調査委員会、43年度の成果の上にたち、より高度の測定をして、基礎体力をどのようにして、向上させていくかについての検討にまで進め、強化の一助としてとりくんでいく。

▽技術指導体系作製委員会、44年度にひきつづき、指導体系、第一部(基礎及び理論)、第二部(応用及び戦術)、第三部(練習及び実技)のハンドボール指導書の作成を重点施策とする。中学校の正課種目に入った機会になんとか44年度までに完成させたい。

▽用具委員会、43年度に検討を続けてきたゴールネットとボールに関して、種々の問題もあるのでこれをひきつづき実施していく。

国際審判員講習会派遣

審判部44年度事業計画

例年どおり、審査委員会、合同会議、規則研究委員会は仕事を進めるとともに、今夏マドリッドで行なわれる国際審判員講習会に少なくとも一人派遣することが認められた。

このほかには次のような研修会が予定されている。

全日本大会審判員研修会　44年5月中下旬

昨年行なわれ好評であったこの会を本年も行なう。

本年は特に複審制という大きな問題があるので、これを中心にして、規則解釈の統一、審判技術の向上をはかる。

公認審判員研修会

各大会時に併せ実施する

全日本高校選手権大会　8月　群馬・富岡
全日本教職員選手権大会　8月　埼玉・上尾
国民体育大会　10月　長崎
全日本実業団選手権大会　2月　名古屋

ほかに各ブロック毎の講習会が2月～3月に各ブロックで行なわれる。これは今年度も行なわれているもので、各ブロックの審判部長が中心となって主催し、隣接ブロックの審判部長、審判部員が協力するという今年度と同様の方法で行なわれる予定となっている。

また43年度から継続実施している。名簿の作製、審判着の販売を行なっていく。

審査委員からは、今年1月に行なわれた審査結果が報告された。それによるとA級に8名、B級に18名が合格したが、申請手続不備のため、不合格になるものが多かった。

A級では予備申請(6月末まで提出)のないもの、試合数不足、B・C級に関しては書類不備、試合数不足、手帖記入事項不備などが見受けられた。

審判審査規定に関しては本誌52号(1968年4月号)9頁に掲載してあるので、これを参照にして、くれぐれも不備のないようにとの報告であった。

それとともに1月19日の合同会議の内容が報告され、複審制に対しての共通理解について説明がなされた。これは別に本誌に掲載する予定である。

普及部44年度事業計画

普及部は今年度の目標を自衛隊への普及と中学校の指導要領の改正にともないどのようにして指導普及を行なうかの研究に置き、計画をたてている。

第一の目標に関して、自衛隊の全国大会の開催のために準備を進め、そのために講習会を10月上旬に防衛大で行なう予定にしている。

中学校指導をどのようにしていき、これに伴なってどのような指導普及をしていくかは重要な課題であるので、これを研究して、よりよい方針で進めていこうというのが第二の目標である。

それとともに、特に普及面が遅れている地方を毎年解消していこうということで、今回は鳥取、島根の両地域が選ばれ、この地域に重点的にチームを増加させていこうという方針である。

全日本教職員連盟が正式発足

規約役員を決定　千代理事長に山田計氏

全日本教職員連盟の発足が正式に決まり、別掲のように日本協会全国評議員会で四つめの加盟団体として承認された。

全日本教職員連盟設立までの経過は昨年12月、清水市で開かれた発起人会で全国各ブロックからの出席者の賛同を得て、発足への準備をととのえることになり、1月16日東京で各ブロックから推せんされた代表者によって規約（4章26条）を承認。ただちに規約にのっとって初代役員（任期2年）の選出を行い、副会長に入江暢一氏を推したあと、理事長に山田計氏（大阪日体大出）、副理事長に嶋田新太郎氏（富山・日体大出）を選出。このほか12人の常務理事、13人の理事を決めた。常務理事は競技・指導など6部門を分掌するが、審判部門は藤田八郎、遠藤健次両氏が担当する。

なお、会長は未定、監事も空席である。

この席上、今年の第12回全日本教職員選手権を埼玉県上尾市で開くことに申し合わせた。

山田理事長の話　教職員という特色を活かした活動を積極的に進めていきたい。とりあえず、中学校学習指導要領案に採用が復活されたことでもあり、同教材の指導大綱などを研究し、全国講習会を開きたいと思う。

【役員】▽会長　未定▽副会長　入江暢一（茨城）▽理事長　山田計（大阪）▽副理事長　嶋田新太郎（富山）▽理事　◎藤田八郎（熊本）、◎藤田信義（山口）、村田弘（大阪）、◎片瀬喜代次（静岡）◎町田歳雄（群馬）、◎清水正（山梨）、◎渡辺慶寿、◎山口毅（以上東京）＝以上会長委嘱理事。平仲孝栄（沖縄）、日野博（九州・福岡）疋田忠（同・大分）越智武（四国・愛媛）、今田夏一（同・香川）辻一義（中国・岡山）、◎柳井文治（同・山口）、望月伸三郎（近畿・大阪）、狩野幸介（同・兵庫）、伊藤和夫（東海・愛知）、◎渋谷行康（同・静岡）、柳沢民弥（北信越・長野）、天野耕兵衛（同・石川）、斎藤和夫（関東・茨城）、◎遠藤健次（同・埼玉）、佐藤敦（東北・岩手）、◎由利弘（同・秋田）、岡田豊夫（北海道）▽監事未定　（◎印は常務理事）

「愛知女子教員」が発足

全国でもめずらしい女子教員によるチームが愛知県津島市で発足

【愛知女子教員クラブ】▽監督　斎藤昭和（愛知学院大出）▽選手　河内（茨城大出）、伊藤（中京大出）、平尾（すみれ女短大出）、金山、中島、石川、足立、青山、田中岩河（以上中京女大出）

全日本教職員ハンドボール連盟規約

○…第1章・総則…○

第1条（名称）本連盟は全日本教職員ハンドボール連盟と称する

第2条（事務所）本連盟の事務所を日本ハンドボール協会内に置く

第3条（組織）本連盟は北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄の各地区連盟で組織される

第4条（資格）本連盟の教職員とは、教育機関にたずさわる者をいう

第5条（目的）本連盟は教職員チームの総括並びに斯界の育成と発展に協力する

第6条（事業）本連盟は次の事業を行う

一、本連盟の運営。二、各種大会の開催。三、各種講習会。四学術調査並びに研究。五、その他本連盟の目的達成に必要な事項

○…第2章・役員…○

第7条（役員）本連盟に次の役員を置く

会長1名、副会長若干名、顧問若干名、理事長1名、副理事長1名、理事若干名、常務理事若干名、監事2名

第8条（会長・副会長）会長は理事会に於いて推薦する

会長は本連盟を代表し一切の会務を総括する

副会長は会長が委嘱し会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する

第9条（顧問）顧問は必要に応じて置くことができる。顧問は理事会の推薦を得て会長これを委嘱する

第10条（理事長、副理事長）理事長、副理事長は理事会に於て互選される。理事長は会長の指示を得て会務全般の処理を統括する。副理事長は理事長を補佐する

第11条（理事）理事は次の推薦で会長これを委嘱する

一、各地区連盟より2名

二、会長は9名以内の理事を委嘱することができる

第12条（常務理事）常務理事は理事会に於て互選し会長これを委嘱する。常務理事は理事会の決定に従って常時分掌を処理する内容及び分担は別に定める

第13条（監事）監事は理事会に於て推薦され、会長が委嘱し本連盟の財務を監査する

第14条（任期）役員の任期は2ヶ年とし再任をさまたげない

但し補欠役員の任期は前任者の残任期間とする

○…第3章・会議…○

第15条（会議）本連盟の会議は理事会、常務理事会とする

第16条（理事会）理事会は本連盟の最高議決機関である

理事会は全理事をもって構成し、定例理事会と臨時理事会とする。定例理事会は全日本教職員選手権大会の前日と2月中旬臨時理事会は会長が必要と認めたとき招集する

第17条（常務理事会）常務理事会は理事長及び常務理事で構成し必要に応じ理事長が招集する

第18条（権限）理事会に付議される事項は次のとおり

一、予算の審議。二、決算の承認。三、事業計画。四、規約の

廃改。五、役員の承認又は決定
六、その他の重要事項

第19条（議事）理事会の成立は理事の過半数（委任状を認める）の出席を必要とする

理事は出席理事の過半数で決定する。会議の議長は会長があたる

○…第4章・登録…○

第20条（登録）本連盟の登録は日本協会の登録規定による

○…第5章・経費…○

第21条（経費）本連盟の経費は次のものをあてる

一、負担金（各地区連盟）。二、事業収益金。三、補助金及び寄付金。四、その他の収入

第22条（負担金）負担金は理事会において決定する

第23条（資産）本連盟の資産は会長が保管する

第24条（会計年度）本連盟の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終る

○…第6章・附則…○

第25条（常務理事分掌）本連盟の常務理事の分掌は次のとおり

一、庶務部。二、財務部。三、審判部。四、競技部。五、指導部。六、調査統計部

第26条 本規約は昭和44年4月1日より施行する

実業団連盟理事長は 田中滋章氏に

実業団連盟では、実業団選手権大会会期中に浜田猪三郎理事長の勤務上の都合による辞任を認め、田中滋章氏（名大出、日本協会常務理事、タヨシ産業）を理事長に選出した。田中氏は日本リーグ準備委、愛知協会などで大いに新しいアイディアを盛りこんだ企画を実行しており、その手腕が大いに期待される。

また日本協会には、田中滋章氏と平出一氏（日進商会）を理事として、派遣することに決定した。

田中理事長の話 名古屋に在住する私がこの要職を遂行するのは障害もあるだろうが、平出副理事長（関東実連理事長）が東京での緊急事項は処理してくれるということでお引きうけした。

全日本実連も設立して4年目を迎えるわけだが設立当時と比べて登録チームが増加していない事実などやるべき仕事は山積している

実力的にも、男子は大崎電気（埼玉）を除いては学生勢に対抗出来ないのも問題だ。したがってこの「普及と強化」の2本立て政策を遂行するために「地区実連の設立促進」「男女のリーグ」など思い切った策を積極的に打たねばなるまい。

だが、それ以前にこれまでのメンバーとちがった。若手で弾力性のある役員を選びひとつひとつ着実に成果をあげていきたいと思う。また、在京の後任理事長を育成することも急務と考える。

全力を注いで実連正常化につとめたいと思っており、皆さまの御協力をお願いいたします。

今夏、韓国高校の来日決定

日本体協理事会は、2月5日、今夏8月17日から3日間東京の駒沢公園オリンピック記念総合運動場で「第2回日韓高校交歓総合スポーツ大会」を開くことに決めたと発表した。

実施競技は、本誌既報のとおり昨夏ソウルで行われた第1回大会と同じハンドボール、陸上競技、バスケットボールなど7競技。ハンドボールは男子2試合が予定され、対戦する日本チームは、今夏富岡市（群馬）で開かれる第19回全日本高校選手権の優勝校と、同大会の東京都代表（1校）になるもよう。

国体の選手数は11人

日本協会では今回のルール改正に伴なって今年度から各大会の参加人員が増加するとみているが、各大会のうち国体は規縮模少が噂されており特例を設けることが決定的となった。

1チームの構成は11人から12人になり、交代選手が5人になったが国民体育大会はむしろ、縮少していこうという体協の方針によって選手数を増すということは非常に困難であり、もし選手数を増すならば、現在行なわれている形の試合は無理になり、チーム数をへらさざるを得ない状況になってくる。

国体は今後小さな県で開催されることが多いため、各競技団体に対する人員の総ワクが決められているために、先に述べたようなことがおこるのであるが、ハンドボールとしては、国民体育大会に限り、一チームの人員は従来通りの11人で行なうことにした。

この措置で、背番号が問題になってくるが、これは改正されたルール通りに、正規のゴールキーパーが1番、交替のゴールキーパーが12番をつけ、フィールド・プレーヤーは2〜10番の背番号をつけ11番は欠番することが申し合はされた。

新国立競技場にハンドボール場を!!

国立競技場では、東京都北区福付出井頭町に予定している総合運動場建設計画の原案を2月14日の評議会で報告した。用地（元兵器補給廠跡＝国有地）の払い下げが3月上旬の国有財産審議会で決まれば早急に建設委員会を発足させ整地に着手する意向だ。

建設計画原案によると国立総合運動用地は三万八千平方メートルでサッカー専用競技場、総合運動場、体育館、テニスコート、緑地帯が設けられる予定。完成は47年4月。日本協会と東京協会ではこの計画案を重視、その一角に「ハンドボール専用コート」を加えてもらうよう積極的な働きかけを行うことになり、2月5日とりあえず国立競技場・前田充明理事長あて要望文書を送った。

荒川理事長の話 東京オリンピック以後駒沢の施設がかってのようにハンドボール専用とはいかず、東京における本拠地を失っていた。

北区に国立競技場が設置されるようならぜひ加えてもらいたいと思う。東京協会と協力して働きかけをすすめるが、学生界（全日本学連・関東学連）などとも力をあわせ、日本ハンドボール界全体の運にまで伸ばすことも考えている。

本誌恒例

昭和43年度重大ニュース

「中学校学習指導要領案」採用など—

球史上、将来にまで記憶されるべき事項を選ぶ本誌恒例の「重大ニュース」を今年度は次のように並べてみた。（編集部）

①「中学校学習指導要領」（案）にハンドボール復活（12月）

球界の悲願とまでいわれた中学校体育教材への復活は、12月文部省が発表した「中学校学習指導要領案」に加えられたことにより一気に光明を見出せた。

同案は3月中に告示、昭和47年度から全面的に実施されるが、ハンドボールは保健体育の球技課目として個人的機能・集団的機能・ゲームなどを指導する。日本協会ではハンドボールの教育的効果が再認識されたことを喜ぶとともに年少層への競技普及にも大きな期待がかけられるとしている。

②新会長に田村正衛氏（2月）

昭和42年12月、鈴木前会長の退任以来、空席となっていた会長の座に、2月の定例評議員会で、田村正衛田村紡績社長が決定した。明年の世界選手権、ミュンヘンのオリンピックと重要な行事が山積している斯界だけにその手腕が大いに期待される。

③第4回世界女子7人制選手権流会（9月）

12月モスクワなどで行われる予定の女子世界選手権は8月に起ったソ連軍のチェコ侵入事件など国際状勢に影響され、9月のIHF総会（荒川理事長出席）で流会が決まった。

日本は昨年の四冠王田村紡（三重）を主力に代表選手も決まり、数回の強化合宿を経て上位入賞有望の声が強かっただけに残念なニュースであった。

④選手強化対策本部が発足（10月）

ミュンヘンオリンピックでの実施決定、来年にせまった第7回世界男子7人制選手権などに備えトップレベルの強化を企るため球史上初の選手強化対策本部が多大な期待のうちにスタートした。初代本部長は荒川清美理事長の兼務となり男子指導委員12名、女子指導委員5名が選任された。2月にナショナルチームを決定。44年度にはヨーロッパ遠征を行なうことになった。

⑤全日本教職員連盟発足（1月）

教職員界のヨコの連絡機関としてかねてからその設立が望まれていた全日本教職員連盟は、12月の発起人会につづいて、1月中には規約を承認。初代理事長に山田計氏を決定、正式に発足した。

全日本教職員選手権を日本協会と共催するほか、学校体育としてのハンドボール指導・研究などを主に行なう。

⑥大洋デパート（熊本）三冠王

スケールの大きい攻防を持ちながら勝運にめぐまれなかった大洋デパートが今シーズンは全日本総合（8月）、国体（10月）、全日本実業団（44年2月）でみごとに全勝、三冠王を飾った。史上三番目の四冠王のチャンスを逸したのは全日本選抜（12月）の出場を勤務の都合で辞退したためである。

⑦菊池農高（熊本）活躍

全日本高校選抜選手権（8月）で初優勝した菊池農高は、国体（10月）でも圧倒的な強みを示して優勝。さらに全日本選抜(12月)にも推せんをうけて出場、日体大東京重機などの強敵を退けて推せん選抜制後、高校現役として初めて決勝リーグ（ベスト4）へ進み超高校級という定評どおりの活躍をみせた。

なお全日本高校での記録は6試合得点76、失点27。国体では3試合得点34失点9という抜群のものだった。

⑧国体高校部門も選抜・混成の出場認める（10月）

これまで国体種別のなかで高校男女だけは単独チームに限られていたが、今年度から県選抜あるいは二校以上の混成チームによる出場が認められることになった。

さっそく、男女それぞれ5県が選抜混成によって出場をはたし男子では全静岡がみごとに優勝、女子でも2位以下4位までを占めるという成果をあげた。

⑨全日本学生王座決定戦、21年の幕閉じる（12月）

昭和23年以来、学生界最高の大会として各学連の目標におかれていた"王座"も、近年は全日本学生選手権の発展で、往時ほどの重みがなくなり、全日本学連では、ここ数年間慎重な審議を重ねて来たが、今年度で終会に踏み切った最後の一戦は12月1日大阪で行われ立教大（関東）が関西大（関西）を降した。21回の王座の行方は関東13（芝工大8、立教大3、日体大、教育大各1）関西8（関学8）。

⑩日韓高校交流再開、下関中央工が韓国遠征（8月）

韓国側の事情などで久しく中断されていた日韓高校交流が、総合競技会の名で復活、ソウルでハンドボールなど7競技が行われた。ハンドボールは全日本高校で初優勝した下関中央工(山口)を代表として派遣。朝鮮大附属高に18—16で勝ち、大倫高には12—16で敗れた。両国高校ハンドボールの交流は3回目。なお今夏は韓国側が来日して8月東京で行われる予定。

そのほか

▽関東学連創立30周年迎える（5月）▽日本協会、三局設置など機構改革（7月）▽スポーツユーゲント、三菱鉛筆と交歓（8月）▽ルーマニア協会コーチ、N・ネデフ氏来日、大崎電気など指導（9月）▽女子学生界拡充へ

宮城協会が20年

宮城協会ではこのほど創立20周年を迎え1月19日仙台市の宮城県スポーツセンターで記念式を行い功労者などを表彰した。

同協会は昭和23年6月創立、東北球界の"中心地"として発展、多くの好チーム、好選手を輩出している。

感謝状を贈られた協会関係者（個人）は次のみなさん。

阿部来太郎、藤井勝雄、古市慶一郎、木下彰、鎌田常郎、椛沢直司、木村淑郎、松川金七、峯岸義秋、松本隆一、塩沢亮、佐藤敦、角田友三郎、宇野量介、山下忠、（ABC順、敬称略）

全日本候補 東京で 強化合宿

ミュンヘンへつながる来年の世界選手権（フランス）。この大会をめざす全日本第一次候補の強化合宿が1月21日から26日までの5日間東京代々木の日本青少年総合スポーツセンターで行われた。

▽……この合宿に参加したのは33名。試験などの関係で大山（法大）松浦（同志社大）ら5名の学生と勤務先の事情で代表を辞退した江名、尾形（ともに三景）の顔が見えなかっただけだ。

強化委員も村田、稲石、勝、北川高橋、竹野（兼選手）の6人が合宿に泊りこんでの指導。

選手の数ももちろんだが、指導陣の数も、未だかってこれだけの合宿はなかった。

▽……宿舎は東京オリンピックの選手村。

強化合宿日課
（1月21日～26日）

▼第1日（1月21日）
- ▽荒川本部長挨拶
- ▽健康診断
- ▽体力測定
  - ・形態測定
  - ・筋力測定
  - ・全身反応測定
  - ・呼吸器機能測定
- ▽心理テスト

▼第2日（22日）
- ▽体力測定
  - ・機能測定

▼第3日（23日）
- ▽練習

▼第4日（24日）
- ▽練習
- ▽ルールテスト

▼第5日（25日）
- ▽練習
- ▽試合

▼第6日（26日）
- ▽公開選考試合（早大記念会堂）

候補選手たちの心のなかに知らず知らずのうちに〝オリンピック〟が刻みこまれていく。どの顔も緊張ぎみ。激しい正選手争いというよりもやはり、責任感がそうさせるのだろう。

合宿は別表のとおり進められたが、体力測定や機能測定それに体協医師団による綿密な身体検査が2日間にわたって行われた。

これも斯界にとつて初めての試みといってよい。今までは代表選手が決まったあとで、それらの選手だけを〝診断〟していたのだが今回は、たとえ世界選手権のメンバーにもれても、ミュンヘンに待機する選手となるわけでこのような配慮となったものだ。

▽……こうした〝課程〟は他競技ではすでに何年も前から実施されている。ハンドボール界だけがとり残されているような印象が強かった。

荒川選手強化対策本部長は『たしかにハンドボール界はこのような計画が遅れている。しかし、他競技の多くはオリンピック、ユニバシアードあるいはアジア大会などを東京へ招いたのをきっかけに多角的な強化策は充分に研究し、つむことができた。ハンドボールは、その機会がまったくなかったのだ。

ミュンヘン実施を機に、これまでの遅れをとりかえしたいものだ』という。

▽……選手たちも、いっしよう懸命だ。日本協会の意気と選手の情熱が一丸となって熱く燃えあがっているのが強く感じられる。

国際経験も豊かなあるベテラン選手はこういった『ようやく日本にもヨーロッパなみの指導体制、強化体制ができあがった。という感じです。世界の一流国となるためには、いつそうこうしたシステムを積極的に推進して欲しいと思います』

また、ある若手は『この合宿に参加してナショナルチームの候補に選ばれたという誇りがもてました』と目を輝やかしていた。

▽……合宿の主眼はスピードとパワーの養成、戦法面ではディフェンスの強化におかれた。

平均一七八センチというFP陣をコートサイドで見ているとたしかに迫力があり、ただでさえサイドラインと体育館の壁がくっついている練習場をいつそう小さくせまく感じさせた。

だがスピードはまだまだ物足りない。コーチ陣のリーダー格。村田指導強化委員（前回世界選手権監督）も、どんな小さなパスでもこの点が欠けると叱りとばしている。

ディフェンスについても同じだ稲石指導強化委員（前回コーチ）は『ヨーロッパを相手に得点力はかなり自信がもてる。問題はいかに点をとられないかだ』として、攻防戦（ハーフマッチ）、練習試合では全指導員がコートサイドから口やかましく、帰陣、マーク詰めなどについて注意を与えていた。

▽……去年9月、日本を訪れたルーマニア・コーチ、ニコライ・ネデフ氏は『日本の課題は大がらな選手とスピードパワーの養成』といっていたものだ。

今回の合宿の狙いもこの3点にあり、強化対策本部も一応の自信は得たようだ。

このうち一つが欠けても〝悲願〟は成らないであろう。

残る1年足らずの毎日は、実に貴重といわねばなるまい。

学生、社会人に分かれ選考試合

全日本候補選手を所属により社会人、学生に分けて対戦した「世界選手権代表選手選考試合」は1月26日午後2時から二千近い観衆を集めた東京・早大記念会堂で行われた。

全日本学生 13（5—6, 8—4）10 全日本社会人

○……合宿仕上げの試合といって

得	【全日本学生】			【全日本社会人】		得
0	綿貫	（早大）	GK	福本	（大崎電気）	0
0	本田	（日体大）	GK	下里	（大崎電気）	0
1	井上	（日体大）	FP	竹野	（大崎電気）	0
0	谷藤	（日体大）	FP	井上	（大崎電気）	1
6	東	（立教大）	FP	近藤	（大崎電気）	2
2	早川	（日体大）	FP	北井	（埼玉教員）	1
1	植木	（中央大）	FP	飯田	（大崎電気）	1
2	藤中	（日体大）	FP	近森	（大崎電気）	1
0	有永	（立教大）	FP	木野	（全立教）	3
0	野田	（立教大）	FP	北村	（全立教）	1
1	平岡	（東教大）	FP	市原	（全広島）	0
0	中井	（同志社）	FP	飯端	（三国丘ク）	0
0	斎藤	（日体大）	FP	福井	（大阪イーグルス）	0
0	鈴木	（早大）	FP	西村	（大崎電気）	0
0	新実	（芝工大）	FP	加藤	（住友化学）	0
0	森	（芝工大）	FP			
0	明石弟	（芝工大）	FP			
13	（0）		7MT	（2）		10

（審・佐野 岡前）

も協会役員や強化委員の目、それにTV中継（関東地区）も行われるセレクションマッチとあっては選手も固くならざるを得ない。のびのびとしたプレーがみられず、両チームともなにか遠慮がちだ。

そのためか得点も少ない。前半は要所で得た二本の7MTを活かした社会人がリードした。

○……後半も同じような展開で進んだが、学生は5分に同点のシュートを決めた東（立教）が、そのあとも幸運を一人で背負いこんだような活躍をみせて16分までに連続4得点し10―7と逆転、さらに早川（日体大）の2点連取で20分12―6と大勢を決めた。

○……試合の性質上、内容的に高いチームプレーを望むのはムリかも知れないが、合宿疲れのせいか全般にスピードがなく、史上最高という長身選手を揃えたわりには迫力も乏しかった。

また、長身選手が攻撃面ではさすがに鋭いプレーを見せたが、守備面では緩慢であった。ディフエンスの強化が世界上位への道といわれるだけに、これは今後の大きな課題となろう。なおこの試合は複審制で運行された。

○……○……○

『選考試合』にさきがけてコーチ団では、1月25日午後4時から日本青少年総合センター3階体育館で社会人、学生両チームによるレギュラー・マッチ（非公開）を行った。

全日本社会人 21（9―10、12―9）19 全日本学生

【得点者】▽社会人＝近森5、飯田、近藤各4、福井、市原各2、井上、加藤、木野、西村各1

▽学生＝東、井上、藤中各3、早川、平岡、斎藤各2、野田、中井明石、植木各1

第一次合宿を終って

村田 弘

（日本協会選手強化対策本部委員）

第7回男子7人制世界選手権を一年後に控え懸案であったナショナル第一次候補選手40名（GK6 FP34）が昨年末に決定され、1月21日より6日間代々木の青少年スポーツセンターに於て第一次合宿を行った。

選ばれた選手は特に秀れた技術の持主で外国チームと試合のできる条件をそなえていた。体格面では平均身長1m77㎝、1m80㎝以上が11名と非常に恵まれ、集った時は大きいなあと感じたが時間のたつにつれて感じなくなったことは今後外国選手に対するコンプレックスが薄れるであろう。

検査、測定はX線、心電図、検尿、内科検診機能テスト、心理テストと約40項目にわたって行い個人が如何なる状態、能力を持ち合わせているか検査測定をした。

技術面は身体操作、基礎専門技術、コンビネーションプレー試合を行い、期間を通じ理論、気力、体力、技力、試合について細部にわたって委員が眼を光らせ技術診断、態度診断を行い個人個人の資料をつくりあげ今後の参考と選考の資料にした。特に重点をおいたのはボディ・バランス、パスコントロール、ボールの保持能力キャッチの正確、シュート能力、個人の防御技術、コンビを組んだときの組織能力、ゲームの展開力判断力、ヘッドワークであった。なかでもシュートについては記録員を配置しシュート練習、攻防戦試合中の記録を取りシュートの確率を出したので選手は一本も気を許さず気力を充実させて打ったことは非常によかった。チームのシュート率は約60％であったが今後はこれを75～80％に上げねばパーセンテージハンドボールが実行できないし勝利も望めたい。

今回の合宿は検査、測定、技術強化、選手選考、国際試合に対抗する色々な点のマスター等と、内容の不馴れと、初回で実体が掴めなったため計画が立てにくく又練習時間も制限されがちで理論づけも不十分ではあったが収穫は大いにあったと思う。

選手は勝負の厳しさを味わい、競いあいに打ち勝っていかねばならない。今後第一次、第二次候補選手の入れ替えもやりたいと思う

今後の問題

練習計画は1ヶ月おきに強化を行い、その間も一週間に1～2度集って全日本チームの練習を休むことなく続けてゆきたい。付け焼き刃的な練習は絶体に許されていない。内容についても単なる一辺通りの練習に終らさず、外国チームを仮装した重点的なものにして行きたい。特に日本チームとしての特徴のあるチームに作りあげる決心である。

選手については精神力の養成、特に勝利に対する執念と、ゲーム根性を身につけること。次に一時間中走り続けるなど、スケールの大きな試合を続けてもへばらないスタミナを養成したい。技術面は基礎の正確さと強化、スタートダッシュによるスピードの強化、体格の大きい一対一の勝負に強い外国選手に対し日本の一番不備な守備力の強化である。個人の守備力をつけた上で守備の組織力を生かし、攻撃にフォーメイションがあるように守備にもフォーメイションをつくらねばならない。守備練習は地味で面白味がなく、すぐに嫌気がさしてしまうが、日本が8位以内を目ざす大きな問題点となるだろうから、口先だけに走らず、最大の練習を実施しなければならない。攻撃は大きい相手に対するブロックプレーの活用により得点の取れる、変化に富んだ攻撃システムを持つこと。又ポストプレーヤーの養成も急務である。攻撃力は守備力があがってくれば自然に出来上ってくる。亦攻守の休みないすばやい転換を充分に身につけねばならない。今回の測定結果から個人の劣っている点を指適して、個人のレベルアップを図りたい。日本ハンドボール界30年の実を試す時に直面している現在、ルーマニア遠征を計画いただき、これをいかすよう役員も選手も総力で頑張る覚悟です。最後に全国の指導者の皆様尊い経験からの御意見、御指導をお聞かせ項ければ大いに参考にして励みたいと思いますので左記宛お願いします。『東京都渋谷区神南町25（郵便番号一五〇）日本ハンドボール協会選手強化対策本部』

—女子— 大洋三冠王 —男子— 大崎が九連覇

第9回全日本実業団選手権大会

第9回全日本実業団ハンドボール選手権大会は2月8日〜12日の5日間、横浜市文化体育館、同公園体育館の両会場に男子30、女子8、計38チームが参加して行なわれた。

男子は、トーナメントで行なわれ大崎電気が準決勝で常盤工業にくいさがれたほかは順当に勝ち進み、9連勝を飾った。

一方、女子は、選抜方式で行なわれ四強の激突となったが、期待された三菱、大崎両チームに元気がなく、大洋デパートと田村紡が無傷のまま最終日に当り、大洋は前半リードされながらも、後半もち前の粘りと攻撃力で逆転し2年ぶり3度目の優勝、全日本総合、国民体育大会に続いて、三冠の遺業をなしとげた。

大阪ガス、神鋼と接戦

男子トーナメント

▽1回戦

本田技研（三重）24（9—5、15—7）12 武田薬品（山口）

日本鋼管京浜（神奈川）29（13—8、16—6）14 日立製作所日立（茨城）

富士レジン（兵庫）23（11—9、12—9）18 京都信用金庫

大阪ガス（大阪）17（6—8、11—8）16 神戸製鋼（兵庫）

日進商会（神奈川）33（16—10、17—11）21 大同製鋼（愛知）

三菱レイヨン大竹（広島）21（10—6、11—8）14 金沢市役所（石川）

常盤工業（岐阜）29（12—7、17—11）18 安田生命（東京）

＝以上横浜文化体育館

住友化学菊本（愛媛）19（10—8、9—6）14 自衛隊勝田（茨城）

北陸電力（福井）30（13—7、17—7）14 タヨシ産業（愛知）

セントラル自動車（神奈川）18（9—4、9—8）12 丸善石油（和歌山）

千代田印刷機製造（東京）19（9—6、10—9）15 日本鋼管福山（広島）

川崎車輛（兵庫）19（10—4、9—9）13 日本発条（神奈川）

富士製鉄名古屋（愛知）24（12—3、12—10）13 宗形製作所（大阪）

三菱油化（三重）23（11—8、12—11）19 日本原子力研究所（茨城）

＝以上横浜公園体育館

○……文化体育館会場・一方的な経過の試合が多いなかで、大阪ガス×神戸製鋼戦はもつれて面白かった。

前半神戸はよく走り、大田、梅田、沖津らの活躍で優位に立ったが、大阪は後半、スローペースから好機を恵美が巧く活かし8分9—9と追いっいた。一進一退から大阪は10分、16分（7MT）、17分と相手ミスに乗じて3点をとり14—12と逆に主導権を握った。

しかし神戸も友広のゲットなどで23分には14—14と粘り、その後1点づつを入れあって延長が予想されたが大阪は28分辻野、29分恵美がセットからの変化で決定的な2点をあげ17—15、神戸必死の反撃を29分20秒梅田の1点におさえて辛くも逃げこんだ。

本田技研×武田薬品は武田が10分5—2とリードする出足のよさを見せながら、そのあと後半6分まで無得点という貧攻大下の巧技を軸に追いあげた本田にあっさり逆転を許し、ずるずると敗れてしまった。

○……富士レジン×京都信金は、富士レジンが立ちあがり狩山、河野らの速攻で一気に6点をもぎとってペースを握り、その後はとられたらとり返すという余裕のある試合ぶりで押し切った。

京都はエース福井が12点をたたき出す活躍を見せよく粘ったものの、スタートでの失点があまりにも大きすぎた。

三菱レ×京都市役所は11—6とはなされた京都が、後半2分北野の連続ゲットから追撃し、10分には1点差。追はれながらも三菱レはゆとりをみせ20分14—12から相原の活躍で再び差をあけ制勝した。

そのほか有力といわれた日進商会、常盤工業は順当勝ちし、接戦が予想された日本鋼管×日立は鋼管が地元の声援に応えて快勝。

○……公園体育館会場・緒戦の住化×自衛隊勝田が白熱した。前半15分までに住化は6—2とリードし、25分には9—4と順調に点差をあけた。しかし、ここで一息ついたために勝田の反撃にあい29分には9—8とおいこまれ、29分30秒加藤のゲットでどうにか余裕をもって前半を終った。

後半は、たがいに凡攻から好機をつぶしあい、リードしながらも住化はなかなか試合の主導権を握れず、22分に15—13と再びつめよられた。

勝田がこのあともう一押しできたら勝敗の行方は変っていたかも知れないが、住化は23分平野、25分には7MTを白石が慎重に決めて5点差とし安全圏に入った。勝田の成長が賞される一戦だ。

○……好カードと注目された千代田印刷×日本鋼管福山は期待どおりの熱戦となったが前半24分6—6から千代田がベテラン青木の連続ゲットなどでリード。青木は後半も10分10—8から5点をかせぐ好調で自軍を勝利へ導いた。鋼管は松村らの巧技で終盤持ちあじを発揮しただけに、青木へのマークの甘さが悔やまれよう。

不利とみられていたセントラル自動車が丸善石油を退けたのは波乱といってもよいだろう。

特に0—3とリードされたあと門間らの好シュートで一気に8点をあげた攻撃は鮮やかだった。劣勢となった丸善は反撃の気勢もあがらぬままその後は散発的に得点したにとどまった。

そのほかは順当な結果だったが宗形を一蹴した富士鉄名古屋の攻防は去年よりいちだんと迫力をましスタンドの関心をかっていた。

年次優勝チーム

【男子】	第1回〜第9回	大崎電気（9連勝）
【女子】	第1回	愛知紡
	第2回	愛知紡
	第3回	愛知紡
	第4回	レナウン東京
	第5回	大崎電気
	第6回	大洋デパート
	第7回	田村紡
	第8回	田村紡
	第9回	大洋デパート

富士鉄、川崎車輌に快勝

▽2回戦

住友化学菊本 20（13—7, 7—1）8 北陸電力福井支店
千代田印刷機製造 16（12—6, 4—4）10 セントラル自動車
富士鉄名古屋 38（18—11, 20—8）19 川崎車両
三景（東京）34（19—7, 15—5）12 三菱油化

＝以上横浜文化体育館

日本鋼管京浜 30（15—12, 15—6）18 富士レジン
大崎電気（埼玉）23（14—5, 9—2）7 本田技研鈴鹿
常盤工業 16（8—7, 8—3）10 三菱レーヨン
日進商会 34（20—10, 14—7）17 大阪ガス

＝以上横浜公園体育館

○……2回戦は両会場とも波乱なく進んだ。

住化菊本×北陸電力は北陸が2分笹島のロングシュートで好スタートをきったが、その後ディフェンスを堅めた住化の前になすすべを知らず、住化の加藤、白石を主体とした攻撃に着々加点され前半で試合を決められた。その後も住化は加藤の好配球から、ポストプレーを中心とした攻撃で加点し勝った。

千代田×セントラル自動車は前半4—4と一見好試合の感はあるが、内容は極端なスローペース。後半、青木の連続ゲットで千代田のものとなった。

富士鉄×川崎は点差こそ開いたが面白い試合であった。富士はキビキビした動きで試合を進め、鋭いパスを基調にしたポストプレーで高橋、杉野、黒岩、伊藤の4人で前半20点をたたきだした。川崎も高井を中心によく攻めたが、富士の得点力との差は大きく、大差をつけられた。

後半も富士鉄は快調にとばし、38点という今大会の最高得点をたたきだした。

三景も三菱油化の挑戦をかんたんにしりぞけ、準々決勝にすすんだ。

一方、横浜公園体育館では、もっとも期待された常盤工業×三菱レイヨンは、三菱が先行したが、前半14分をすぎる頃、常盤は高橋の連続ロングシュートと7MTで17分には4—2とリードその後も山田大野が加点して、前半8—3と5点差になった。後半、よく大竹は追ったが、前半の失点は大きく、ついに上位進出ははたせなかった。

他の三試合はいずれも予想通り日本鋼管、大崎電気、日進商会が大差で勝利を握り、それぞれ準々決勝に進出した。

大崎・住化・常盤・三景が勝ち進む

▽準々決勝

大崎電気 23（14—2, 9—4）6 日本鋼管京浜

得	【大崎】		【日鋼】	得
0	福本	GK	湯原	0
0	下里	GK	折本	0
2	井上	FP	林	0
2	西村		鈴木	0
4	近藤		小林	0
1	片山		赤裏	0
3	飯田		山田	0
3	竹野	（審判 岡田 吉川）	小松	0
0	籏野		桜井	3
4	近森		穴沢	3
2	谷口			
2	佐藤			
23	（0）	7MT	（1）	6

前半17分までは、鋼管は良く走り、桜井が6分、9分、16分と得点をあげ、常に大崎に先行していた。20分を過ぎる頃から、近森を中心に加点し、9—4と5点差にした。

後半になると、鋼管は疲れが出て、開始早々から、大崎に連続ゲットを許し、点差は開くばかりであった。大崎は、メンバーを入れかえながらも、着々と加点し、一方的に鋼管を押しまくった。

日本鋼管の健斗が賞される一戦であった。

（吉川審判員）

住化菊本 24（11—10, 13—6）16 千代田印刷機製造

得	【住化】		【千代】	得
0	季原	GK	福島	0
0	成行	GK	青木	5
5	神代	FP	城	2
0	金剛		宮崎	0
0	平野		梅崎	1
0	松井		山中	0
2	長嶺		近藤	5
7	加藤	（審判 佐野 岡前）	木村	0
0	北山		田崎	3
5	落海			
5	白石			
0	上田			
24	（0）	7MT	（4）	16

住化はセットオフェンスから着実に、守りのゆるい千代田陣をポストプレーで攻め、前半15分には7—0と一方的な試合とした。その後千代田も青木を中心として、得点をかえしたが、一人ずつが切りこみ、チームとしての動きがほとんどみられず、青木をマークされると、どうにもならず、点差を拡げられた。

後半に入っても、同様な動きで点差が開き、後半15分までに住化は6点をあげ、19—8と大差をつけた。その後、安心したためか、ミスの多くなった住化の攻撃を千代田はよくつき、15分をすぎる頃から追ったが、大差はどうすることもできなかった。

千代田は練習不足のためか、ハンドリングが悪く、一人ずつがバラバラな動きをし、加えて、もどりも悪かったため、大差になった。

（藤本）

常盤工業 20（12—5, 8—7）21 日進商会

得	【日進】		【常盤】	得
0	大柴	GK	渡辺	0
0	大石	GK	森	0
4	正本	FP	中島	3
0	奥村		高橋	9
1	村田		安井	0
1	永島		山田	4
0	古屋		鳥村	3
1	生能	（審判 森 梅野）	大野	0
3	小野瀬		伊藤	0
0	北橋		吉金	1
2	米沢			
0	夏目			
12	（0）		（2）	20

成長が大いに期待されているチーム同士の試合。前半10分すぎまで同様の得点経過で進んだが、その後は山田が好配球、自からも決め5連続得点をあげ、ワンサイドになりかけたが、日進も正本らのサイドシュートが決り、追いあげ1点差で前半を終了。

後半に入ると、常盤の長身選手高橋のシュートがさえ、着々とリード。高橋のシュートは打点が高いため、どうしても防ぐことができなかった。日進のオフェンスには、工夫がなく、わずかに個人技で対し、しかもシュートミスが非常に多く、これでは、山田のフェイントからのパス、シュートを軸にした常盤の攻撃に対することはできなかった。日進はチームプレー、勝負をつけるタイミングを学ぶべきであろう。

（森審判員）

三景 25（16—5, 9—5）10 富士鉄名古屋

【三景】		得
GK	西牧	0
GK	小野	0
FP	竹村	1
FP	江名	2
FP	外間	4
FP	榊	4
FP	高梨	5
FP	内藤	6
FP	伊藤	1
FP	山原	0
FP	河原	0
FP	尾形	2

【富士】		得
GK	高木	0
GK	伊東	0
FP	鏡味	1
FP	高橋	3
FP	杉野	0
FP	黒岩	2
FP	素川	3
FP	伊藤	0
FP	石川	0
FP	川瀬	0
FP	日光	1
FP	杉浦	0

（審判 淀 佐分）

10（0）7MT（2）25

富士鉄はよく戦ったが、昨日の相手と異なり、強者三景が相手では勝手が違い散発的にしか、得点はあげられなかった。

三景は、開始早々、内藤、江名と連続得点をあげ、ペースを自己のものにし、その後も多彩な攻撃で、着々と加点していった。加えて、富士鉄のミス、パスカットをタイミングの良い速攻に結びつけて、増々点差を拡げた。守っても尾形がフィールドに出たあとに入った小野、西牧の両ゴールキーパーの好守もあり、富士鉄の得点を許さなかった。富士鉄は三景がメンバーをかえ、ややペースをおとした時に得点するだけであった。しかし、大差をつけられながらも憶することなく、小気味よいテンポの早い攻撃を元気一杯行なった富士鉄の試合ぶりには好感がもたれた。

（藤本）

▽準決勝

大崎電気 20（14—6、6—8）14 常盤工業

【常盤】		得
GK	渡辺	0
GK	森	0
FP	中島	0
FP	高橋	2
FP	安井	0
FP	山田	5
FP	鳥村	3
FP	大野	0
FP	伊藤	0
FP	吉金	4

【大崎】		得
GK	福本	0
GK	下里	0
FP	井上	5
FP	西村	4
FP	近藤	2
FP	片山	0
FP	飯田	3
FP	竹野	3
FP	簱野	0
FP	尾崎	0
FP	佐藤	1
FP	近森	2

（審判 田中 森）

20（1）7MT（1）14

前半、常盤は小さくボールをよくまわして、山田につなぎ、山田独特の鋭いシュートがよくきまり1人で5点をあげ、8—6とリードして、前半をおわった。

後半、大崎は山田をマークする作戦に出、これは成功したが、代って、吉金が活躍をし、よく1人で4点をあげた。大崎は個人技にたよるだけであり、中々点差がつめられず、あわやと思われた。17分には、13—10と3点差であったが竹野が入り、その後の7分間に8点を連続ゲット一気に逆転した。この大崎の攻撃ぶりは見事であった。竹野のタイムリーな得点とチームリードは光っていた。

（森審判員）

三景 22（16—6、6—5）11 住友化学

菊本

【住化】		得
GK	季原	0
GK	成行	0
FP	神代	0
FP	金剛	0
FP	平野	0
FP	松井	0
FP	長嶺	1
FP	加藤	6
FP	北山	1
FP	落海	1
FP	白石	2
FP	上田	0

【三景】		得
GK	西牧	0
GK	小野	0
FP	竹村	0
FP	江名	5
FP	外間	2
FP	榊	4
FP	高梨	6
FP	内藤	0
FP	伊藤	0
FP	山原	1
FP	河原	0
FP	尾形	4

（審判 岡田 吉川）

22（1）7MT（3）11

両チームともベテラン揃いらしいうまい試合運びを展開したが、特に、江名、尾形の好リードを持つ三景が後半の始めと終了間際に速攻とミドルシュートによって大量に得点をあげ勝った。後半開始後9分間に7点、終了前4分間に5点と爆発的に点をとり、勝利を不動のものにした。

住化は今少し、相手の動作にこだわらず、思いきった試合運びをしていたらと残念に思う。

（岡田審判員）

大崎、三景を全くよせつけず

▽決勝戦

大崎電気 24（13—12、11—5）17 三景

【三景】		得
GK	西牧	0
GK	小野	0
FP	竹村	0
FP	江名	6
FP	外間	0
FP	榊	1
FP	高梨	5
FP	内藤	1
FP	伊藤	0
FP	山原	0
FP	河原	0
FP	尾形	4

【大崎】		得
GK	福本	0
GK	下里	0
FP	井上	4
FP	西村	0
FP	近藤	9
FP	片山	0
FP	飯田	5
FP	竹野	0
FP	簱野	1
FP	太田	1
FP	佐藤	0
FP	近森	4

24（1）7MT（1）17

三景がどこまでやるか大いに期待された一戦。三景は快調に30秒尾形がシュートを決め、とびだしたが、4分近藤、5分飯田とすぐに返され、6分に高梨がゲットしたが、それ以後、三景の高梨、外間、榊らが放つミドルシュートはすべて、長身の大崎ディフェンスの手に当り、そこから大崎の速攻を招いてしまった。

三景の誇る若手のシュート陣は大崎のディフェンスに封じこまれときおり江名の見せるステップシュートで点を返すだけでは、点差は開くばかりであった。

大崎はカットあるいは、キーパボールからの速攻に加えて、近藤近森、井上らが多彩な攻撃から、着々と加点していって、前半終了時には、11—5と6点差をつけて大勢を決っした感があった。

後半に入っても、大崎は次々と加点し、攻撃の手をゆるめず、10点差をつけ、ほとんど試合を決めた。

その後、三景は大崎のメンバーチェンジの間隙をついて、尾形、高梨、江名があるいは速攻、あるいはミドルとシュートを決めて、追ったが、大崎も加点をするので差はさしてつまらなかった。

三景のポストプレー、ミドルシュートを完全に封じこんだ大崎の長身ディフェンスの勝利ということであろう。このディフェンスから次々に速攻を出されるのでは、三景が大差で破れるのも無理からぬ話であろう。大崎は9連勝（第1回以来この大会で39試合全勝）を飾ったが、早く実業団にも大崎をしのぐチームがでてきてほしいものだ。

（藤本）

東京重機、三菱鉛筆に惜敗

女子予選リーグ

▽A組

三菱鉛筆（神奈川）7（3−3、4−3）6 東京重機（東京）

立ちあがり重機は2分山本3分牧野のゲットで2−0とし興味をもたせた。三菱は重機ディフェンスの当りに苦しみながらも10分7MT（落合）、16分小田島で追いついた。重機は20分鷲谷の巧技で再び先行したが、三菱も23分落合がセットから巧く切りこんでタイ。

勝負をかけた後半、互いに固くなり、攻め口がつかめなかったが元気いっぱいの重機は8分と11分当っている鷲谷が鮮やかにシュートを決めて5−3とあけ、12分1点を返されたものの15分牧野のゲットで2点差を守った。このあたり三菱は顔色なかったが、16分姫野が豪快なシュートを決めてから動きが活発となり、20分の7MTを姫野が成功し同点、22分再び7MTを姫野が落ちついて決めやっとの思いで逆転、辛勝した。

重機はまったく惜しい星をおとしたものだが、それにしても三菱の動きの鈍さはいいただけない。（杉山）

田村紡（三重）22（14−2、8−4）6 大洋紡（岐阜）

東京重機 15（9−3、6−4）7 大洋紡

試合消化力の差がはっきりとあらわれ、重機は序盤4−0と速攻ペース。大洋紡は厚い重機の守りにあって単発のシュートをはなつだけ。後半になってようやく走りがみえたものの重機も好機を確実に活かして夜気なった。

大洋紡はボールコントロールにも一工夫欲しい。（森審判員）

田村紡 9（3−1、6−4）5 三菱鉛筆

（この試合は決勝リーグに適用）

【三菱】	得
GK 吉田	0
GK 本庄	0
FP 三井田	0
FP 鈴木	0
FP 遁見	1
FP 落合	0
FP 佐々木洋	0
FP 江川	0
FP 佐々木房	0
FP 阿部	0
FP 姫野	4
FP 小田島	0
計	5

【田村】	得
GK 渡辺美	0
GK 坂上	0
FP 種村	2
FP 渡辺好	0
FP 水谷	0
FP 小林	2
FP 清水	3
FP 辻	0
FP 吉開	0
FP 渡辺信	1
FP 若林	1
FP 三毛	0
計	9

（審判 嶋田・加藤）

5（0）7MT（1）9

三菱は、すっかり走りを忘れてしまい、いたずらにボールが廻るだけ。得点機すらつかめない。

田村紡も甲村が負傷、水谷が未整調とあって若手を起用したためパスのタイミングが乱れ、得意のクイックプレーがしめり勝ち。清水の個人技で優位に立ち、後半はサイドからのゆさぶりなどで15分8−2と勝利を確実にしたが好調というにはほど遠かった。三菱は最後の5分間に姫野が3本のロングシュートを決めたが焼け石に水内容のない試合に終始した。（杉山）

三菱鉛筆 15（8−0、7−2）2 大洋紡

三菱が昨日のゲームと違って、動きが良くなれば、大洋紡はとてもその相手ではなく、速攻をおりまぜ、鈴木、江川、姫野、小田島が着々加点し、差を拡げて、一方的な試合にしてしまった。

部結成以来日の浅い大洋紡は有望新人を多くかかえているので、今後の健斗を期待したい。（岡前審判員）

田村紡 18（11−2、7−3）5 東京重機

今大会、よくスピードに乗り出した東京重機の健斗でゲーム内容は大変充実したものであった。

一方、田村は選抜の時とは異なり、良くスピードに乗り、持ち前の早い動きで着々と点差を拡げていった。特に小林の復調は大きな戦力となっている。

重機は試合運びと得点になるチャンスのつかみ方がまずく、これが今後の研究課題になろう。この点さえ改善されれば、四強とわたりあえる日もそう遠くではないであろう。

いずれにしても、点差以上に内容のある好ゲームであり、両チームの健斗がたたえられよう。（岡田審判員）

（A組順位）一位田村紡3勝、二位三菱鉛筆2勝1敗＝以上決勝リーグへ、三位東京重機1勝2敗四位大洋紡3敗

日本女子リーグは45年度から?

全日本実業団連盟がかねてから提唱している「日本女子リーグ（仮様）」設立問題は、2月10日の同連盟役員会で今後も実現への努力をつづけ日本協会と折しようを進めることが申しあわされた。

日本協会では、昭和45年度から全日本大会の整理、流合シーズン制を確立するプランがあり今秋までにその具体案をまとめるが、「日本女子リーグ」についてもそれと同時に検討する模様。したがって同リーグは早くても昭和45年度からの実施となる。

なお、田中実連理長は『来年いきなり日本リーグというわけにもいかないので、今年度内に女子実業団のトップクラスを選抜した大会—日本女子リーグ戦—を開きたいと思う』と語っている。

大洋デパート、多彩な攻撃示す

▽B組

大崎電気（埼玉） 25（18－1 / 7－2）3 東北宗形製作所（福島）

なだれこむような大崎の速攻に初出場の宗形は圧倒され前半15分で12－1と大勢が決まった。

しかし宗形は最後まで試合を捨てず、特にGK木幡の奮斗が目立った。（岡田審判員）

大洋デパート（熊本） 22（11－0 / 11－2）2 プラザー工業（愛知）

大洋デパート 10（5－3 / 5－3）6 大崎電気

（この試合は決勝リーグに適用）

【大洋】	得
GK 小原	0
GK 安部	0
FP 垂水	2
FP 米	1
FP 渡辺	3
FP 射場	0
FP 下枝	1
FP 枝尾	3
FP 三宅	0
FP 田中	0
FP 島田	0
計	（0）10

【大崎】	得
GK 川崎	0
GK 山田	0
FP 加藤	1
FP 早川	2
FP 鈴木	2
FP 栗林	0
FP 木幡	0
FP 山崎	0
FP 久保田	0
FP 中野	0
FP 日向野	1
FP 三浦	0
計	6（1）

（審判 佐野 岡前）

開始50秒、インターセプトから20mの独走でゲットという鈴木得意のプレーで大崎は先制したが、そのあとは大洋の粘り強いディフェンスを破れず18分まで無得点。この間に大洋はセットから多彩な攻め口を見せ11分枝尾が、12分には左45度から渡辺が糸を引くようなロングシュートをとばし逆転、16分にはフリースローから枝尾の巧技で3－1と優位に立った。

大崎は、18分7MT（日向野）に成功したものの20分をすぎて再び大洋の攻撃を許し、2点差をつけられ反撃の期待された後半も逆に2分、6分、10分に失点、8－3と望みを断たれた。

大洋はポストプレーが封じこまれると、渡辺、枝尾らのシュート力を活かした中距離攻法に切りかえるなど巧い試合運びを見せ、フリースローからのチャンスのつかみかたも研究のあとがみえた。

大崎は早川、鈴木がマークされて動きが鈍り、しかも若手に全日本選抜時のような精彩がなく、点差以上に大洋が押しまくった試合だった。（杉山）

プラザー工業 20（10－4 / 10－7）11 東北宗形製作所

前半15分までは一進一退。5－4と一歩リードしたプラザーは16分朝倉のゲットを口火に一気にスパート、早いつぶしからマイボールを得て連続5点、6点差をつけ前半を終った。

宗形は後半伊賀、永岡の活躍で13分には10－13まで追いあげたが試合の主導権を奪うことはできずそのあと井上の好リードを軸としたプラザーの攻撃を許して敗れた。

初出場同志らしい気合のはいった好試合といえよう。（佐分審判員）

大崎電気 17（10－2 / 7－1）3 プラザー工業

大崎は開始早々、早川がゲットし、好スタートをきり、以後、日向野、三浦、鈴木と連続ゲットし試合の大勢を決めた。

プラザー工業は大崎のスピードとよく対等にゲーム展開をしたが最後のシュートに、決定的な力がなく、得点には結びつかなかった。

後半に入り、プラザー工業はスタミナ不足から、大差をつけられた。

大崎は後半もよく走り、プラザーのミスを得点に良く結びつけ快勝した。大崎は鈴木が良く6点をあげ、活躍した。

強力チーム大崎電気を相手に最後まで、良く食い下り、ゲームを捨てずによく斗ったプラザー工業の健斗は賞されてしかるべきである。（佐野審判員）

大洋デパート 17（10－2 / 7－1）3 東北宗形製作所

大洋は、30秒、下枝、1分、田中と得点をあげ、スタートは快調であった。宗形は5分、伊賀がゲットし、2－1としたが、大洋はこのあと、島田がよく4点を連続してあげ大勢を決めた。その後も大洋は米、田中、米、島田と得点を重ね、宗形の反撃を永岡の1点に押え、10－2と大差をつけた。

後半に入っても、大洋の攻撃はゆるまず、渡辺3点、下枝、島田が各2点と7点をあげた。大洋は控選手が場を与えられ、良く活躍し、大差をつけた。

両チームの技術の差は大きく、試合は終始、大洋ペースで試合が進んだ。

東北宗形の技術向上が望まれるところである。また、この試合に見せた大洋のブロックプレーは特にすぐれていた。（佐分審判員）

B組順位　一位大洋デパート3勝、二位大崎電気2勝1敗＝以上決勝リーグへ、三位プラザー工業1勝2敗、四位東北宗形製作所3敗

×　×　×

この結果、決勝リーグは大洋デパート、田村紡績、三菱鉛筆、大崎電気の四強で争われる形となった。この組合せは。今シーズン、三回目、田村の尻上りの快調さが眼についていた。また大洋の抜群のコンビプレーとシュート力が眼だった。それになし、選抜に優勝し、その力が上昇していると見られた大崎電気、地元の声援もありこの大会はと期待された三菱鉛筆の両チームの元気のなさはいささか期待はずれであった。

大洋2点差を逆転、優勝す

三菱、大崎を降し、三位を獲得

女子決勝リーグ

大洋デパート 6（4―0 / 2―4）4 三菱鉛筆

得	【大洋】		【三菱】	得
0	小原	GK	吉田	0
0	安部	GK	本庄	0
1	垂水	FP	三井田	0
0	米	FP	鈴木	0
2	渡辺	FP	蓮見	0
1	射場	FP	落合	0
0	下枝	FP	佐々木洋	0
2	枝尾	FP	江川	0
0	三宅	FP	佐々木房	0
0	田中	FP	阿部	0
0	島田	FP	姫野	4
0	坂本	FP	小田島	0
6	（1）	7MT	（1）	4

（審判 佐分 田中）

前半、三菱はゴール前で、ただ単にボールを廻すだけ、しかも、そのボール廻しがゆっくりしたものであり、ワンドリブルしてからパスをするため、ボールを持っているもの以外は立ちんぼうという状態で、攻撃の芽をつかみようもなかった。

一方、大洋も、三菱のパスをカットしての、速攻、セットプレーからのゆさぶりから、シュートを決めようとするが、三菱の長身ディフェンスの前に、思うように、得意のミドルシュート、ポストプレが功を奏さず、ゆっくりとした試合運びとなった。

それでも、大洋は7分、垂水が7MT、13分、20分に渡辺がステップシュートで得点をあげ、22分には枝尾が追加点をあげ、4―0とし、一方的な試合となった。

後半に入っても、三菱の攻撃は前半と同様にゆっくりしたペースで、姫野にフリースローなどから打たせ、4分と12分に決めて、やや面白味がでてきた。ボールはほとんど三菱がもっており、大洋は攻撃の時間が少なく、攻撃に入っても、守備の時間があまりも長いので、完全にペースを狂わせられたようであった。

しかし、14分、15分に枝尾、射場が連続ゲットして、ダメを押した。その後もゆっくりしたペースの試合に終始し、三菱は姫野が2点を返しただけにとどまった。

この大会、三菱の不調ぶりは全くひどく、攻撃の芽が全くつかめないような状況であった。調子が良い時には、非常に強力チームであるが一旦、歯車がかみあわなくなると、どうしようもなくなるのが、三菱鉛筆である。

大洋もその三菱ペースにすっかりはめこまれ、日頃の歯切れの良い攻撃が影をひそめてしまったのはうなずけない。

得点差の割には、内容が乏しい凡戦であった。（藤本）

田村紡績 15（7―6 / 8―6）12 大崎電気

得	【大崎】		【田村】	得
0	川崎	GK	渡辺美	0
0	山田	GK	坂上	0
0	加藤	FP	種村	4
3	早川	FP	渡辺好	2
5	鈴木	FP	水谷	2
1	小林	FP	小林	5
0	木幡	FP	清水	1
0	山崎	FP	吉開	0
0	中野	FP	渡辺信	1
0	日向野	FP	若林	0
2	三浦	FP	三毛	0
1	寺尾	FP	辻	0
12	（0）	7MT	（3）	15

（審判 嶋田 加藤）

大崎は開始すぐ鈴木がゲット、次いで、6分20秒鈴木がまたゲット、田村も7分に清水、8分に種村がゲットして、2―2のタイ、大崎は8分30秒にゲット、田村も渡辺信がゲット、3―3となる。試合はとりつ、とられつ、大崎はミドルと切りこみで、田村は持ち前の早い動きからのポストプレーそれにフォローする動きとそれぞれがもち味を充分に生かした好試合となった。

20分をすぎてから、両チームとも得点がとまったが、田村は24分30秒に水谷がゲットして、7―6にして前半を終了した。

後半に入ると、種村が左サイドの得意の位置から、ミドルを2本たてつづけに決め、3点差としたこれで、大崎はきわめて、苦しい立場におかれた。5分に三浦が1点を返したが、小林が7MTを連続ゲットし、また4点差とつきはなした。大崎もよく、鈴木が中心になって、得点を返したが、田村も水谷、小林らがゲット、追いすがる大崎をつきはなした。小林の復調は明るい材料であった。田村紡は鋭いタテの切り込みが復活しそれに若手の渡辺信、若林がチームにとけこみ、良い動きをしていた。大崎は中野の負傷が大きな痛手であり、またピンチ7MTに出てくる日向野が不調であったのもより試合を苦しくした。

両チームとも充分なスピードにのり、とりつ、とられつのシーソーゲームを展開し、ハンドボールらしい興味深い試合を展開してくれた。久しぶりに見る好試合であった。（藤本）

三菱鉛筆 13（7―2 / 6―3）5 大崎電気

得	【大崎】		【三菱】	得
0	川崎	GK	吉田	0
0	山田	GK	本庄	0
1	加藤	FP	三井田	0
1	早川	FP	鈴木	1
0	鈴木	FP	蓮見	1
0	小林	FP	落合	0
0	栗林	FP	佐々木洋	0
1	木幡	FP	江川	2
0	山崎	FP	佐々木房	0
0	寺尾	FP	阿部	0
0	三浦	FP	姫野	6
2	日向野	FP	小田島	3
5	（0）	7MT	（5）	13

（審判 嶋田 佐野）

この試合、今大会期待されながら不調だった三菱はその汚名を一気にけしとばすような動きを見せた。この動きがもう少し、早く出ていたならば惜しまれる。

開始早々、三菱は小田島がゲットし、これですっかりペースにのった。3分40秒には、蓮見がゲットした。大崎はどうしたわけか、昨日のような動きが全く見られない。その後も、三菱は姫野がマークされたが、他の選手が実に良く動き、大崎ディフェンスが動きにつききれず、手を出してとられた7MTを姫野が着実に決め、ますます自己のペースを確立していった。前半7―2と5点差で三菱がとり、全く優位になった。

後半に入っても、三菱の動きは変らず良く、4分小田島が、5分30秒に姫野が7MTを決め、7点差とし、絶対的な優位を占めた。

大崎は散発的にしか、得点を返すことができず、僅かに7分40秒に加藤、15分30秒、16分50秒に日向野が連続ゲットしただけであった。そのあとも鈴木、小田島、姫野とゲットし、快勝した。

大崎は三菱に先手、先手と攻めこまれ、浮き足だち、コンビが悪くなり、パス、シュートともにミスが続き、それが命とりとなった。

三菱はこれまで、前半に差をつけられ、後半追いこむという試合運びが多かったが、これを機会に全員が試合運びを身につけてくれればと思う。（佐野審判員）

大洋デパート 11（4―6 / 7―3）9 田村紡績

得	【大洋】		【田村】	得
0	小原	GK	渡辺美	0
0	安部	GK	坂上	0
6	垂水	FP	種村	3
0	米	FP	渡辺好	2
3	渡辺	FP	水谷	0
1	射場	FP	小林	0
1	下枝	FP	清水	1
0	枝尾	FP	甲村	0
0	三宅	FP	吉開	0
0	田中	FP	渡辺信	1
0	島田	FP	若林	2
0	坂本	FP	三毛	0
11	（3）	7MT	（0）	9

（審判 佐分 碇）

前半、田村紡は快調に改め、種村に加えて、若林、渡辺信が良くシュートを決めた。大洋は田村紡のす早いアタックにやや攻めあぐんでいたが、得た7MTを垂水が確実に決め、終了間際に得た7MTも垂水が決め、良く喰い下がった。田村はこれまでになく、良い攻めを見せ、ポストプレーを主体に、それにフォローが良く、見違えるような良い動きを見せ、前半リードを得た。

後半、最初に得点をとったチームが有利になるであろうとのスタンドの声をうら書きするように、大洋は後半のスローオフのボールをそのまま射場がゴールに入れ、1点差とした。続いて大洋は渡辺が決め、2分30秒には、同点となった。

田村紡はポストプレーから、清水が決め、リードを奪ったが、4分には垂水が決め、7—7の同点になった。田村紡はこのあと、大型の大洋ディフェンスを攻めあぐんでいる間に大洋はフリースローのフォーメーションプレーをおりまぜた攻撃によって垂水が連続ゲット、9—7と2点差にした。15分前後にも、渡辺、射場が連続ゲットして、11—7として、大勢を決っした。大洋はこのあとも攻撃をし、チャンスを何度も迎えたが得点をあげることはできなかったが、田村紡の攻撃を種村の2点に押えて、勝利を自らのものにした。

大洋は粘り強さと、どこからでも得点できる体制、フリースローをはじめとする研究心の旺盛さ、三冠王を得るにふさわしい好チームである。

（藤本）

	洋	田	三	崎	勝	負	得	失
大洋	／	○	○	(◎)	3	0	27	19
田村	●	／	(○)	○	2	1	33	28
三菱	●	(●)	／	○	1	2	22	20
大崎	(●)	●	●	／	0	3	23	38

実業団ベストセブンも決る

終合終了後、実業団のベストセブンが次のように選ばれた表彰された。

男子GK福本　弘（大崎電気）
　　FP竹野　奉昭（〃）
　　　　井上　素行（〃）
　　　　近藤　信行（〃）
　　　　江名　英彦（三　景）
　　　　加藤　久勝（住化菊本）
　　　　山田　透（常盤工業）

女子GK渡辺美智子（田村紡績）
　　FP種村　好子（〃）
　　　　渡辺須和子（大洋デパート）
　　　　垂水　秀代（〃）
　　　　早川　清美（大崎電気）
　　　　鈴木　功子（〃）
　　　　姫野八重子（三菱鉛筆）

初の複審制一応成功

44年度からの実施が決定した複審制は、先の審判部の決定によって、今大会、はじめて全国大会で正式に採用された。

全国の各ブロックから集った審判員だけに、やや問題があるのではないかとされていたペアの組み方も、初日、二日目とまずまずのすべり出しを見せ、十分に自信がもてる状態になったので、三日目には、ペアを組みかえ実施するなど複審制を消化するため、意欲的なとりくみ方を見せた。

実際に任に当った審判員の多くは、従来よりずっと笛に自信がもてる。また、選手も両側から見られているので、不必要な反則をしないようになっていると語っており、また参加選手にきいてみても従来よりよくみてくれるとおおむね好評であった。

最初としては、きわめて順調なスタートということが云えよう。

山田審判長も初めてのことなので従来よりもずっと細かな気の配り方をして、ハーフタイム・試合終了時には必ず審判員との話し合いをし、一日がすむとその日の試合の全般を通じた問題点を審判員と話し合っていた。

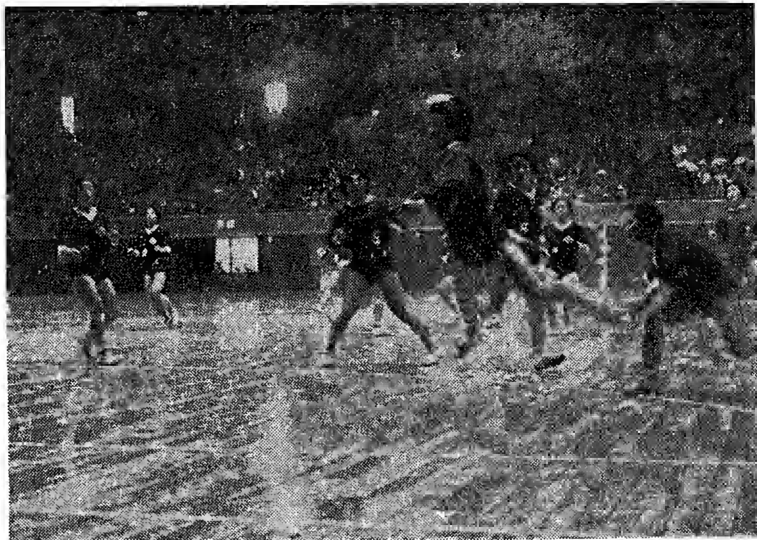
選手も審判もはじめてのこと故今回には出なくても未だ多くの問題が今後に出てくることが予想される。

あるチームの監督が語っていたように、実施後しばらくの間、二人の審判員の笛がくいちがった場合には、ゲームの進行を若干とめても、双方が納得できるような話し合いが必要となろう。複審制が軌道にのった暁には、このようなことはないのがよいが、軌道にのるまでは規範にとらわれ、センターレフェリーの云うことだからと安易に妥協するよりは、スタートの時点で納得できる笛を双方が吹けるようにお互いに話し合い、統一的な見解がとれるようにしておくことが必要である。

今後、実施上で多くの問題点がでてこようが、それぞれの問題を納得のゆくまで討論し、よりよい複審制が我国において実施されるよう望むものである。

3月16日に全国理事会

日本協会の新理事（昭和44・45年度）による全国理事会は3月16日、東京渋谷の体協で開かれる。理事長など新執行部の選出、予算承認を行なう。


女子決勝リーグ
田村紡—大崎電気


女子決勝リーグ
大洋デパート—三菱鉛筆


男子決勝
大崎電気—三景戦

大学の日韓交流も再開か

韓国協会からこのほど全日本学連西敏郎会長あて「今年6月に日本の大学チーム（男子）を招待したい」という連絡がとどいた。

韓国側では昨年来、日韓大学交流の再開を熱望しており、今回の計画が実現されれば、今後はたがいに招待しあう構想があると伝えられている。

なお、日韓における大学交流は昭和36年秋に日体大男子が招待を受けて訪韓、38年6月には日本協会と全日本学連が韓国学生選抜（男子）を招へい全国各地で6戦を行っている。

愛媛協会新役員決まる

昭和44年度は日本協会をはじめ各組織とも役員改選期にあたっているが、そのトップを切って愛媛協会がこのほど次のように新人事を発表した。

▽会長　梶浦暲▽副会長　藤田照明▽理事長　越智武▽常任理事　山崎幸夫、河本武夫、玉田貢

各地区学連新役員

▼関東▽会長　西敏郎▽理事長　田中秀夫▽審判長　遠藤健次▽委員長　城田肇（日体大）

▼東海▽会長　梅村清明▽理事長　藤松博▽審判長　宇津野年一▽委員長　梶川住孝（中京大）

▼九州▽委員長　大木新博（西南学院大）

ハンドボール選手の体力測定実施報告 (2)

技術資料調査専門委員会

B、機能面 (1)

機能面（1）は機能的種目の中の(イ)(ハ)、即ち筋力と敏捷性を取り上げて、報告することにする。

筋肉を鍛えるということは、体を使えば使うほど、筋力の働きがよくなるという事である。

これは、一口でいえば間違いのないことであるが、体の使い方のよしあしによって、体の働きの発達にも違いが生ずることは、当然である。

体を使う方法が、わるければ、疲労だけがはなはだしくのこり、発達も少なくなる。

使い方がよければ、疲れは少なく発達がめざましい。

筋肉の発達と練習との関係は、どのようになっているのであろうか。

練習によって筋肉の太さが増すことは、われわれが日常経験することがある。

筋肉の太さは、腕や下肢の周径を測れば、およその見当がつく。

太い筋肉は大きい力を出すことが出来る。練習によって筋力が増加するのは、筋肉が太くなるためである。

動物実験の結果から、筋力は筋肉の横断面積に比例することが知られている。

筋肉の横断面積は、いいかえれば、筋繊維の横断面積の合計である。これを前腕の断面積と握力の関係をみると、大体比例関係があるという事がわかる。

この関係は勿論皮下脂肪が多い時には、成り立ちにくい。

又、筋肉が発揮する最大の力、即ち、最大筋力と筋肉が一定の力を持続する時間、即ち持久力とは必ずしも平行するものではない。

運動がすばやく行えるという事は、筋力がすばやく、すみやかに収縮するからである。

これは適切な訓練によれば、筋肉の収縮はすみやかになる。

これには二つの要素がある。

一つは筋肉そのものの性質の変化、他の一つは、筋肉を支配する神経系の働きの変化である。

筋肉についてのみ、言うならば筋肉の力が強ければ強い程、又、筋肉の内部抵抗が小さければ小さい程、筋肉の働きがすみやかに行える事である。

以上の事柄から考え、いかに我々の身体活動の良否が、筋肉の働きによって、左右されているかという事が良く解ると思う。

結果と考察

第一表は、各種目別ごと（中学男女、高校男女、大学男女、一般男女）に、各項目別の平均値及び標準偏差を算出したものである。

それを全国（文部省体育局四十三年三月発表の体力運動能力調査報告書資料）平均値と比較して見た。

ここでは、背筋力しか比較出来ない。但し握力の平均値は全国は左右の値を加えて、二で割ったものであるので、ここでは、同様の方法で比較検討してみることにする。

敏捷性テストは同様なテスト項目が、ないのでここでは結果だけで省略することにする。

背筋力は、全国平均値と較べ全ての段階に於て優れていることがわかる。

特に男子についてみると、中学より高校の間に著しい、発達を示していることがうかがえる。

それ以後の大学、一般の段階では、発達は見られず、この時期の筋力トレーニングの不足を物語っているのではないか。

これを女子について見ると、中学、高校、大学、一般と微力ではあるが、段階をへて発達しているようである。

次に、握力について見ると、前述の方法で、全国平均と比較検討を加えると、中学男子平均三一、六瓩・全国平均二八、七瓩・中学女子二二、六瓩・全国二三、六瓩・高校男子四三、六瓩・全国四二、二瓩・高校女子三一、一瓩・全国二八、三瓩・大学男子四七、七瓩・全国四四、八瓩・大学女子三一、〇瓩・全国二八、五瓩ということになり、各々男女共、大きな開きはないようである。

ただ、中学女子に於ては、有意差はないが、数字的な面より、少し値が小さい。これは、ハンドボール女子のチーム数が少ないので比較対象にならないのではないか。これをハンドボールの段階別に見ると、男子に於ては背筋力と同様、中学から高校の間に著しい発達を示しており、大学・一般と漸次のびている傾向にある。

女子については、高校より上はあまり発達していない。

敏捷性については全国との比較資料がないので検討は出来ないがこれを各発達段階で見ると、二〇m走については、測定技術の問題もあり、これを解釈するに大きな難点があることは当然とみるが、男子に於て、中学・高校より、大学・一般がよいことが、うかがえる。女子については、全般的に、大きな変動がないと解釈する。

この種目については今後、検討する必要がある。

[illegible]九m三往復走については、男女共、発達段階に応じてのびている。五回連続ローリングについて、男子に於ては、高校に良い値を示している。

女子は、大学が、高校男子について、良い値を示している。

第二表は各種別とも項目ごとにレギュラー・メンバーとその他の部員に分けて、平均値及び標準偏差を算出したものである。

各種別とも、総体的にレギュラー・メンバーが優れていることが解る。中学男子に於ては、レギュラー・メンバーと、その他の部員との比較に於て、レギュラー・メンバーが大きな値を示していることは、この時期の発達発育の特徴が出ていることを示しているのではないであろうか。又、中学女子大学女子、一般女子で筋力測定に於て他の部員がレギュラー・メンバーより良い値を示しているが、これらの値は差がないと見て良い。

第三表は、一般男子と大学男子のレギュラー・メンバーの各項目を形態面と、同様に東京オリンピックのバレーボール日本選抜チーム、バスケットボール日本チームとサッカー全日本六十年、六十一年度候補選手と比較し、又女子については、一般女子と大学女子のレギュラー・メンバーと日本バレ

第 1 表

		中学男子			中学女子			高校男子			高校女子		
		ハンドボール		全国平均	ハンドボール		全国平均	ハンドボール		全国平均	ハンドボール		全国平均
		X̄	SD		X̄	SD		X̄	SD		X̄	SD	
背筋力 kg		117.1	±22.8	98.3	91.6	±20.8	69.9	150.3	±22.4	135.2	107.2	±19.9	82.5
握力 kg	右	33.0	± 8.6	28.7	23.3	± 7.0	23.6	45.6	± 7.2	42.2	31.0	± 4.7	28.3
	左	30.2	± 8.4		21.9	± 4.3		41.7	± 5.6		31.3	± 4.7	
20m 走 sec		3.42	± 0.3	—	3.56	± 0.32	—	3.35	± 0.23	—	3.68	± 0.24	—
9m3往復 sec		15.1	± 0.98	—	16.6	± 0.77	—	14.9	± 0.73	—	15.9	± 0.9	—
5回連続ローリング sec		5.56	± 0.87	—	5.84	±1.23	—	5.31	± 0.69	—	5.76	± 0.88	—

		大学男子			大学女子			一般男子			一般女子		
		ハンドボール		全国平均	ハンドボール		全国平均	ハンドボール		全国平均	ハンドボール		全国平均
		X̄	SD		X̄	SD		X̄	SD		X̄	SD	
背筋力 kg		149.2	±32.7	138.6	119.4	±18.2	82.6	152.1	±22.2	—	122.1	±21.4	—
握力 kg	右	49.6	± 7.4	44.8	32.1	± 6.2	28.5	55.5	± 8.2	—	32.5	± 6.7	—
	左	45.7	± 7.2		29.8	± 5.3		51.2	± 7.9	—	28.5	± 8.0	—
20m 走 sec		3.24	± 0.3	—	3.55	±0.27	—	3.26	±	—	3.49	±	—
9m3往復 sec		14.6	± 1.03	—	15.8	±0.9	—	14.7	± 1.55	—	15.6	± 0.75	—
5回連続ローリング sec		5.61	± 0.89	—	5.32	±0.64	—	5.66	±0 .66	—	5.73	± 1.17	—

ーボールチーム（日紡）とを、比較したものである。（東京オリンピック科学研究報告、二二四頁、二五〇頁、二六二項参照、但し日紡バレーチームの二〇m疾走及び九m三往復走については、別資料にて記載してある。）

尚敏捷性テスト項目においては同一資料がないので、バレーボール、別資料の二〇m疾走及び九m三往復走の資料を文章の中に叙述する。

男子

背筋力については、バスケットボール、サッカー、ハンドボール共、類似した値を示しているが、バレーボールは一九七、二瓩と他の三競技を圧していることは、注目すべき事実である。

又握力を見ると、ハンドボール一般が高い値を示している。これは、他のハンドボール選手の資料を見ても、握力が良い値を示している。

敏捷性については、他に比較するものがないが、幸いにして全日本男子バレーボール代表選手体力テスト結果（昭和四十二年十二月二十一日測定）があるので、それと比較して見ることにする。

二〇m疾疾走三、〇四秒±〇、〇七でハンドボール選手より〇、二秒の差があり、又九m三往復走については、十三、二秒±〇、五七と一秒の差で、いずれもバレーボールチームが優れている。

この値は、勿論ハンドボールの選抜チームと比較するのが妥当であると考えるが、参考までにと思いのせたものである。

女子

女子については、バレーボールチーム（日紡）と比較してみると、（女子については、他にあまり資料がないので）筋力については、さほどの差がないことを確認する。敏捷性については、二〇m疾走、九m三往復走共に、日紡チームが共に優れた値を示していることが解る。

以上をプロフィルしたものであるが、前にも述べたように、これ等ハンドボールはいずれも一流選手を対象としたものではいので比較検討をするにはかなりむりな点があるが、ハンドボールと同様の資料がないのでこのような結果を上げて見たことを御配慮を願いたい。

まとめ

現在の筋力測定では、一般的には背筋力、握力は代表的なものである。

特に走、投、跳の運動の三原則を培っているハンドボールに於ては、これ等の力をそなえることが大切であるといわれている。

ソ連の走高跳の世界記録保持者、ブルメは、伸脚が一一〇瓩を示したといわれる。跳躍力は脚

第 2 表

			中学男子		中学女子		高校男子		高校女子		大学男子		大学女子		一般男子		一般女子	
			X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD
背筋力 kg		R	123.9	±16.7	94.3	±15.3	157.9	±21.8	106.3	±19.8	152.9	±37.1	118.0	±17.4	153.7	±24.1	121.9	±17.2
		O	109.6	±25.9	88.9	±24.6	142.3	±16.0	97.6	±17.3	145.0	±26.3	121.8	±18.5	150.6	±20.1	122.2	±30.2
握力 kg	右	R	37.5	± 8.2	22.8	± 8.7	47.2	± 6.8	31.4	± 4.6	50.1	± 7.5	33.6	± 6.3	56.8	± 8.9	35.3	± 7.1
		O	28.1	± 6.1	23.8	± 4.9	43.1	± 7.0	30.5	± 4.7	48.9	± 7.3	29.0	± 4.6	54.0	± 7.2	29.9	± 8.8
	左	R	34.3	± 7.9	22.3	± 4.1	43.4	± 5.73	30.8	± 4.5	46.1	± 7.0	30.9	± 5.9	52.0	± 8.8	30.4	± 9.6
		O	25.6	± 6.1	21.6	± 4.6	40.6	± 6.19	27.8	± 4.5	45.2	± 7.4	27.7	± 2.7	60.5	± 6.7	26.7	± 5.7
20m走 sec		R	3.32	± 0.36	3.50	± 0.30	3.25	± 0.24	3.64	± 0.25	3.23	± 0.20	3.50	± 0.27	3.20	± 0.14	3.47	± 0.3
		O	3.52	± 0.30	3.63	± 0.28	3.35	± 0.21	3.71	± 0.23	3.26	± 0.28	3.64	± 0.20	3.33	± 0.17	3.50	± 0.17
9m3往復 sec		R	14.9	± 0.81	16.9	± 0.72	14.7	± 0.70	15.7	± 0.8	14.5	± 0.98	15.7	± 0.60	14.4	± 1.44	15.6	± 0.7
		O	15.4	± 0.98	16.9	± 0.91	15.1	± 0.63	16.0	± 0.9	14.7	± 0.95	16.0	± 0.96	14.9	± 1.67	15.6	± 0.7
5回連続ローリングsec		R	5.50	± 0.91	5.77	± 0.89	5.28	± 0.69	5.73	± 0.76	5.55	± 0.87	5.29	± 0.67	5.56	± 0.74	5.68	± 1.2
		O	5.63	± 0.80	5.91	± 1.46	5.30	± 0.69	5.74	± 0.9	5.68	± 0.89	5.37	± 0.62	5.76	± 0.56	5.7.	± 1.0

R＝レギュラーメンバー　　O＝その他の部員

第 3 表

		一般男子(ハンドボール)		大学男子(ハンドボール)		日本選抜(男)バレーボール		バスケットボール日本チーム(男)		サッカー全日本60年度61年度候補		一般女子(ハンドボール)		大学女子(ハンドボール)		日本バレーボール(日紡)	
		X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD	X̄	SD
背筋力 kg		153.7	±24.1	152.9	±37.1	197.2	±23.8	155	—	157.1	—	121.9	±17.2	118.0	±17.4	126.2	±13.2
握力 kg	右	56.9	± 8.9	50.1	± 7.5	54.4	± 3.3	53.3	—	47.1	—	35.3	± 7.1	33.6	± 6.3	33.1	± 3.4
	左	52.0	± 8.8	46.1	± 7.0	48.6	± 5.5	58.7	—	42.1	—	30.4	± 9.6	30.9	± 5.9	30.8	± 2.2
20m走 sec		3.20	± 0.14	3.23	± 0.20	—	—	—	—	—	—	3.47	± 0.30	3.50	± 0.27	3.43	—
9m3往復 sec		14.4	± 1.44	14.5	± 0.98	—	—	—	—	—	—	15.6	± 0.71	15.7	± 0.60	14.4	—
5回連続ローリングsec		5.56	± 0.7	5.55	± 0.87	—	—	—	—	—	—	5.68	± 1.22	5.29	± 0.67	—	—

力にもよるが、それを助ける背筋の力も見のがせない。ブルメルは背筋力をコンスタントに二七〇瓩を上げるといわれている。

この筋肉群をエキセントリックな収縮をしつつ、力を出し次の瞬間には、コンセットトックな収縮をするという様式で力を出している訳である。この力が、あの超人的なバネをくわえている訳である。これを見ても、いかに筋力養成が必要であるかが解る。

元来、ボールゲームの選手は、常に上半身を使っているにもかかわらず、下半身に比べ、ちくはぐな発達を示していることは、今後のトレーニングの方法を、考えるに、欠くべからざることであるとは、我々も再認識しなければならない。筋力を養成するには筋肉に負荷を与えて行う、トレーニング、即ち、ウェイト・トレーニングを取り入れる事も、一策であろう。

我々の力は、無限に秘められているという考えで、常にトレーニングを考えることが、必ずや、我々の力を延ばしてくれるものと確信する。

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

藤本　強
杉山　茂

イスラエルも ヨーロッパ諸国と試合

ヨーロッパ諸国間で盛んに国際試合が行なわれ、強化に各国が努力していることが馬場太郎氏のヨーロッパ頼りにもうかがわれるが、イスラエルも強化のために、ヨーロッパ諸国を転戦している。各国がいかに強化に努力しているかがこれで判ろう。手許にある記録では、イスラエルはオーストリー、デンマークと対戦している。

イスラエル　19（9－6、10－2）8　オーストリー

この試合、前半20分まではイスラエルはオーストリーを攻めあぐんでいたが、やがて力を発揮し、大勝している。デンマークとは8－19で大敗しているが、イスラエルも強化に力を入れていることが良く判る。

ポーランド・フランスに2勝

フランスは強化が進んでいるとはいえ、いまださほどの力は備えていない。しかし積極的に強化にのりたく、さかんに、対外試合を行なっている。

ポーランド　26（13－8、13－6）14　フランス
ポーランド　14（4－7、10－5）12　フランス

第一試合、フランスはポーランドと対抗していたのは17分の5－5まで、あとはポーランドの攻撃の前に大差をつけられた。

第二試合、期するものがあったフランスは、12分の2－2から、一気にとばし、前半7－4と3点差にして終了、後半開始早々ポーランドの猛攻を受け、34分には、7－7とされたが、よく粘り、接戦を続けたが、惜しいところで破れてしまった。

この敗戦に対する反省もなされているが、いくつかの改めなければならない点をあげ、次回に備えている。

個々人のシュート数と得点を細かくパーセントにして計算し、どのように攻撃すべきかを研究している。

ちなみにこの二試合、フランスの得点率は28％と23％であった。前の試合は50本シュートを放って14点、後の試合は51本のシュートを放って12点という結果であった。

オランダは スカンデイナビア遠征

オランダも強化に力を入れ、スカンデイナビアに遠征をしているが、好成績はあげられていない。ヘルシンキでフインランドと対戦、オスロでノルウェーと対戦したがいずれも大敗している。オランダの強化はまだまだの感がある。

フインランド　27（13－6、14－7）13　オランダ
ノルウェー　24（12－6、12－6）12　オランダ

スウェーデンは デンマークを破る

この両国は7人制の古豪として多くの国際試合を行なっているが今回73回目の対戦を行なった。

一口に73回と云うが、世界に先がけて、世界初の国際試合を両国で行なったのが1935年であるから33年間に73回の試合を行なっているのだから、一年に2回以上対戦している計算となる。その間に第二次世界大戦をはさんでいるのであるから、両国が近隣にあったにせよ、たいへんな数である。

両国が友好的に、好敵手として、相手になっていたが良く判るであろう。

スウェーデン　16（7－4、9－10）14　デンマーク

この試合、53分には、デンマークが優位になったが、スウェーデンが良く追いこみ、勝利を握ったのである。

スウェーデンでは、1人良く10点（うち7点は7MT）をあげたL・エリクソンの活躍がめだち、デンマークでは、P・ニールセンがよく6点をあげて気をはいた。

フランス女子 スペインに快勝

男子に押されて、いささか小さくなったかに見える女子球界も、国際試合が行なわれている。

フランスとスペインというあまり国際女子球界には名前のない両国が二回対戦している。

フランス　11（5－1、6－3）4　スペイン
フランス　16（11－2、5－3）5　スペイン

この二つの試合で、フランスはモーラン、ルロー、バルディネラがよく活躍している。フランスチームの平均年令は20才を一寸越えたという若さである。

スペインは アイスランド遠征

アイスランドが強化に猛烈に力を入れているのは本誌にもしばしば掲載してきたが、今度はスペインを招き、首都レイキャビックで試合を行ない、二勝をあげ、強化が成功裡に進んでいることを示している。スペインは一流国とは云えないまでも二流の上にランクされていた国。それをいかに地元とは云え、たてつづけに連覇したというのであるから、アイスランドの力が上昇していることを物語っていよう。

アイスランド　25（14－7、11－10）17　スペイン
アイスランド　24（14－12、10－9）21　スペイン

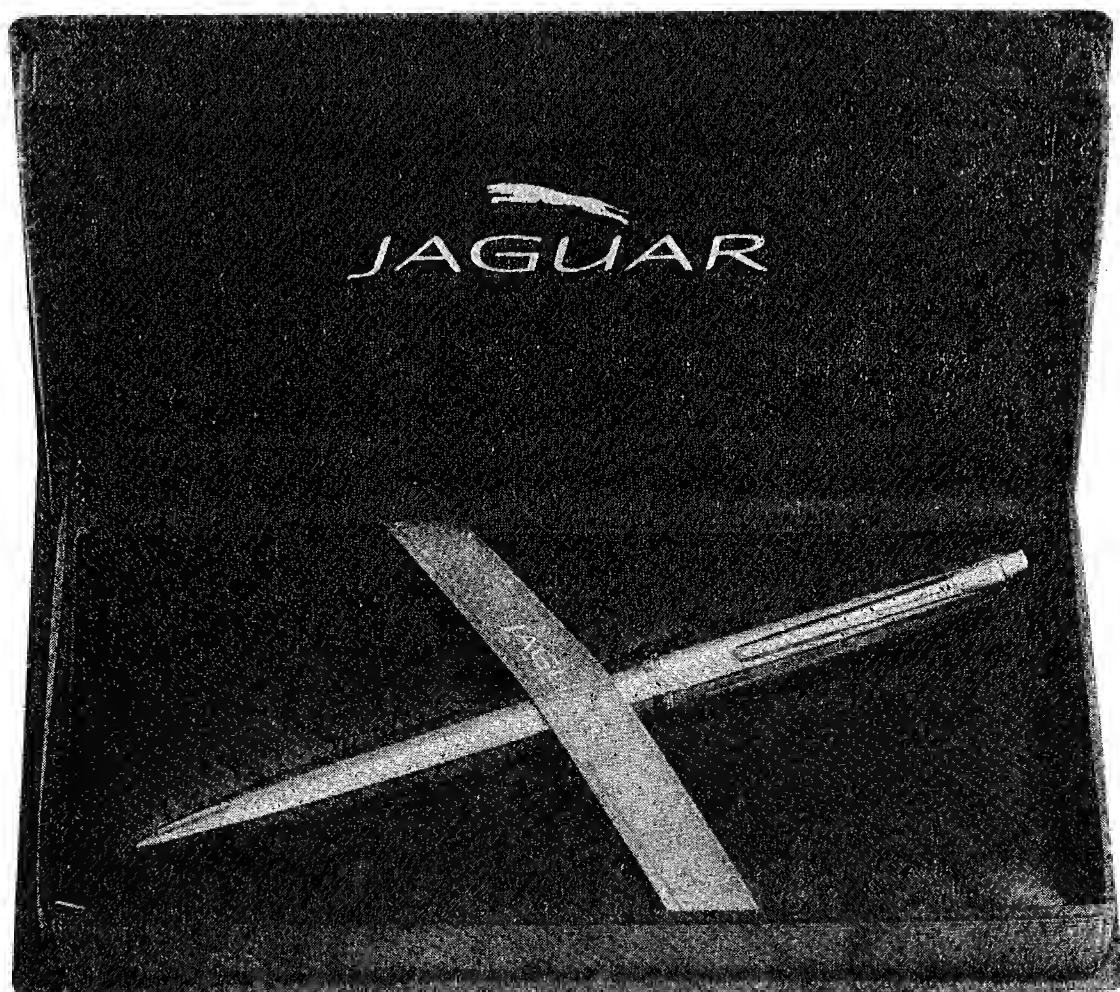
ユーゴもチェコを破る

今季のヨーロッパ球界は西ドイツが破竹の勢いを示し、ルーマニアを連破、世界選手権チームチェコと第二位のデンマークを破り、意気けんこうたるところを見せているが、一方ユーゴーも前からの力を益々のばしてきている。プラーグで行なわれた試合で一点差とは云え、ユーゴーがチェコを堂々と破っていることは、ユーゴーの力が並々ならぬものであることを示していよう。

ユーゴー　19－18　チェコ

このように世界のトップはどこであるのか全く判らない状況になっている。

この他ノルウェーをフィンランドを29－17、20－16で破っている。またスイスとオーストリーの試合は10－10、18－15とスイスの1勝1分となっている。



精かんなきみから
精かんな かれへ **贈りものはジャガー**

胸から出す、ノックする、書く………
三菱ボールペン《ジャガー》は、すべてに
スキがありません。
スマートなデザイン、軽快なキャップ
スライド、ムラのない書き味《ジャガー》
は、行動的な若いあなたに、ぴったりです

精悍なヤツ——

ジャガー

三菱ボールペン

¥2000・¥1000・¥800・¥500

球界パトロール

名門実業団ささえる両ベテラン

木下・沖重選手（三菱レ）



▽……実業団球界の最古参チーム三菱レイヨン大竹工場（広島）。昭和29年春の発足というからすでに15年の球歴を積んでいる。

今でこそ実業団はめずらしくなくなったが、当時のハンドボール界では稀少価値。周囲の目もとりどりで、必ずしも順調な道を歩んで来たわけではないが、それをここまで引っぱって来たのは木下弘重（32才・旧姓、赤名）＝写真前、沖重順陸（32才）両選手の力に負うところが大きい。

▽……『高校（下松工・山口）時代から親しんだ大好きなハンドボールを会社でもぜひつづけたい』と思って高校の同僚小川氏（現在は昭和染工（愛知）チームで活躍）とともにクラブをつくり広島協会へ加盟した。

最初の2年間はユニホーム代、遠征費など一切が部員負担。まじめな練習ぶりと好成績を会社側が認め予算がおりるようになったのは3年めからだ。

▽……いちおうの基盤が出来たところへ岩国工（山口）で活躍した沖重選手らが加入。以来、木下―沖重両選手は13年にわたるコンビを組むことになる。

この間、昭和32年の静岡国体に初の中国代表となり、実業団の全国大会出場第1号と話題をまいた二人にとってもこの時が〝最大の思い出だ〟

年令的な絶頂期をとうに過ぎながらなお第一線で健斗するその努力の裏にはたばこもお酒もほとんどのまないという節制がかくされている。

2月横浜で行われた全日本実業団では木下選手は最年長ながら、若手に負けぬ体力で相変らずゲームメーカーとして巧技を発揮したし、沖重選手もポイントゲッターとしておとろえぬ力を見せた。

▽……両選手とも家庭にもどれば一児のパパ。早く若手にポジションをゆずりたいが『好きだから当分やめられそうにありません』ともいう。

部員不足という悩みはかかえているが『僕らの若かった昭和33年ごろが第1次全盛期。そして有望新人のいるいまは第2次黄金期への入り口……』と後進にかける期待は大きい。

しかし、両選手の情熱をみていると、まだまだ三菱レイヨン行くところ「木下沖重」の名がメンバー表に書きこまれることは間ちがいなさそうだ。いっそうの活躍を祈りたい――。（S）

馬場太郎氏の欧州だより③

大観衆湧かす

ナショナルチームの激突

興奮の西独―チエコ戦

まず、今回は、今シーズン最高の対戦と騒がれた西ドイツ―チェコ戦（1月3日夜、フランクフルトフェスティバルホール）の模様からお伝えしよう。

ホリディオン・アイスショウなどの常打場として知られる会場には、続々とファンがつめかけ、世界注目の一戦にふさわしく超満員一万一千人がつめこまれた。

試合前の練習時から口笛、怒号足の踏み音が絶えず、試合開始とともにいつそうそれが激しくなるという場内のムードは、いやがうえにも大試合の興奮を盛りあげる。もち論、TV中継も行われていた。

審判はオランダから来独のキルボーン、ファンデンハーン両氏。

西ドイツ 14（6―8, 8―5）13 チェコ

得	【西ドイツ】		【チェコ】	得
0	ユーゲン	GK	アーノスト	0
0	ブーダー	GK	スカーバン	0
0	アーレスン	FP	マレス	0
0	バランツ	FP	ベネス	2
3	ブハー	FP	ハブリック	3
1	ヘニガー	FP	ズウダー	1
4	ルブキング	FP	サトラパ	1
3	ムンク	FP	コネクニイ	0
0	ミュラー	FP	クリンキク	0
0	ネイハウス	FP	カーナット	6
0	シュミット	FP	ヘルマン	0
0	ウイナット	FP	ドリサク	0
14				13

西独、驚異の波状攻撃

両チームとも今シーズンは、これまで全勝。前半は互いに満を持したため激しいせりあいもなく、いわば〝偵察戦〟。しかしチェコは、好機とみるやマレスの巧技から得点機を生み出してベネス、ハブリックが得点、さらに7MTを得るとカーナットが着実に決めてポイントを重ねた。

カーナットは、ベンチに退いている時でも7MTを得るととび出して来る。この試合でも10割の成功（4得点）を見せた。

後半に入ると西ドイツは、前半にはあまり活用しなかった（策戦的に…）エース・ルブキングに球を集め、あっという間に8―8の同点とした。

ルブキングは、これで国際試合出場が85回。彼の人気は驚くべきものがあり、その動作ごとに歓声があがるほどだ。

さて、波にのった西ドイツはフイック監督得意の波状戦法―立てつづけのシュートと直線速攻を駆使してチェコのペースを乱し、5分10―9とリードを奪ったあとはがっちり優位を保った。

チェコも必死の攻防で、主導権の奪還を企ったが、タイムアップ前のチャンスをシュミットの巧みなブロッキングに阻まれ、追いつくことができなかった。

それにしても西ドイツが後半に示した攻撃は鮮やかで、一糸乱れぬパスワークとルブキングの突風のようなシュートは「すばらしい」の一語につきる。

全勝同士の対決は、大観衆を魅了する技術の粋を集めた大試合であった。

未だしフランスの実力

世界選手権優勝のチェコを降した西ドイツは、このあと同2位のデンマークを迎えて対戦。接戦となったがルブキング、ミューラーシュミットの「爆撃トリオ」が21点を叩きだす活躍で25―22（前半11―10）と制勝。世界最上位の二者を倒して西ドイツの意気は高まるばかりである。この試合の観衆は約七千。ハンブルグに滞在中の安藤純光氏（日本協会常務理事）と石博詔之氏（岐阜・東京教大OB）も観戦にかけつけていた。

さて、このデンマークが成長株といわれるフランスを本拠アーハス市に迎えると聞き、デンマークを再訪した。

試合は1月12日同市のスタディオンホールに約四千のファンを集めて行われたが、期待はずれの凡戦。

デンマーク 23（9―10, 14―4）14 フランス

このスコアでも判るとおり、前半こそフランスは大がらな選手の激しい当りでデンマークをてこずらしたが、後半は、デンマークのスピーディなパスワークにつけず最後は大差となった。

リードを許したあとのフランスは攻守ともまったくまとまりがなく、ベンチの策戦にも肯けぬものが多かった。

上り坂とはいえ、フランスはまだまだヨーロッパのBクラス。といっても前回でお知らせしたようにオリンピックを控えてヨーロッパ全般のレベル向上は驚異的であり日本がフランスに「勝てる」とは云い切れない。

ノルウェーの進境

例えば日本が世界選手権で2連破したノルウェーが私の滞丁中に来訪しデンマークと対戦するのをみたが、一昨年の大会で顔を合わせた時とは雲泥の差。ポストプレーの妙味といい、激しい当りをともなった速攻など格段のレベルアップを示している。（スコアーはデンマーク19―18ノルウェー）

デンマークは西ドイツ戦でみせたような攻守のハリがなく、そこをフランスにつけこまれ、ノルウェーにも食いさがられたわけだが相手の不調―わずかなスキがあれば、たちどころに主導権が代るというヨーロッパ各国の伯仲は今後ますます激しさを増すであろうしハンス・ワグナー氏も私に『今シーズン好調だといってそれがそのまま世界の最上位を約束させるわけではない。猫の眼のように変わる各国の情勢からみて、〝その時〟にコンディションをどう整えているかがカギだ』といっていた。

層の厚い国内組織

ところで、ヨーロッパ各国のハンドボール層の厚さは聞きしにまさるものがある。

西ドイツは、国内最強チーム八つづつによる南、北両リーグを最頂点にすそ野のように広がる百近い下部リーグを編成している。そして南、北両リーグの勝者の対戦

によって西ドイツチャンピオンが決められる。

デンマークの場合は、4つのディビジョン（区分）があり1部は全国最強10チームによるリーグ、2部はそれに準じる力を持つ10チームによるリーグ、3部は20チームを地域によって東地区、西地区に分けて各10チームリーグ、4部は「シェリエン」と呼ばれ全国を6～7ブロックに分けてそれぞれリーグ戦を組んでいる。

1部下位と2部上位はシーズン後入れ替え戦を行う。

1部の優勝者がその年のデンマークチャンピオンとなるわけで、ヨーロッパ・カップへの出場権を得る。

各部、各地の試合は土、日曜に行われるが、月曜日の新聞のスポーツ面はそれらの結果を伝える記事でいっぱいだ。デンマークは人口わずか五百万。その国でよくもここまでと思われるほどハンドボールが国民の中に侵透している。

ハンドボールを国技と自負するだけのことはある、という印象を強めた。

フランスの場合は地域性が重視されている。

男子は1部と2部が上級。1部は2地域に分かれ各8チームのリーグ戦を行い、上位2者によるベスト4で決勝トーナメントを争う。

2部は4地域に分けられ各8チームのリーグ戦。各ブロックの勝者によって決勝トーナメントというシステムである。

1・2部に名を連ねている合わせて48チームが現在のフランスの一流クラブといってよいわけだ。

決勝トーナメントの決勝戦以外はすべてホーム・アンド・アウェイ、つまり本拠地と相手本拠地で1試合づつ行うから総試合数は四百近い。今シーズンを例にとると1部は10月6日開幕、決勝は4月26日に予定されている。

このほかに群小チームの大会、ジュニア、成年女子などがあるのだからヨーロッパ各国の重厚なシステムには驚嘆のほかはない。

人気高いクラブ国際試合

こうした国内リーグの最上級クラスの勝者が、各国のチャンピオンチームになるわけで、それらを集めた大会がＩＨＦ主催の「ヨーロッパ・カップ・トーナメント」である。

今年は御承知のように国際情勢の変動で男女とも流会に決まり、ファンを落たんさせているが、クラブ（単独チーム）と地元の結びつきが深いだけに、所によってはナショナルチームの対戦よりも、このトーナメントのほうが熱狂をもって迎えられる場合があるという。

クラブ同士の試合としては2月1日コペンハーゲンで行われたハギ（ＨＧ）と呼ばれるデンマークの名門チームとチェコの強豪デュクラ・プラハの一戦が面白かった。

どちらもナショナルチームに主力選手を送りこんでいるだけに内容的にもすばらしく、三千五百のファンを湧きたたせたが、

ＨＧ・コペンハーゲン（デンマーク） 23（10−13、11−8）19 デュクラ・プラハ（チェコ）

のスコアでハギが地元の利を活かした。

ハギからはガルド、Ｇ、アンデルセン、Ｐ・ニールセンの3人のナショナルプレイヤーがこの夜は出場。

一方デュクラにはスカルバン、マレス、ハブリック、ズウダー、サトラパといったそうそうたる連中が加っていた。

審判はデンマーク人がつとめたが、クラブ同士でも公式大会になれば第3者国の審判が招かれるということだった。

巡業?・する審判員

トッププレイヤーは自分の所属チーム、それにナショナルチームと試合々々と明けくれている感じだが、国際審判員の忙しさも、本場ならではだ。

西ドイツ―デンマーク戦を担当したのはチェコのＰ・エドワルト氏とＳ・ミロスラウ氏だったが、エドワルド氏に聞くと、彼は職業である軍務をよそに、今日はプラハ、明後日はハンブルグ、その翌日はキール、そのあとコペンハーゲンといった具合にしじゅう巡業（?）しているそうだ。

辛勝の西ドイツ女子

最後に女子の試合をひとつ御紹介しよう。1月19日ドルトモンドの約25Ｋにあるホーヘンリンブルグの新設体育館で行われた西ドイツ―スウェーデン戦。スコアは

西ドイツ 8（6−3、2−4）7 スウェーデン

西ドイツの陣容はミルター、シギら来日組を中心としたハンブルグ勢を主力にこの試合では全国6地区から選抜されていた。スウェーデンはストックフオルム周辺の選手が多いとか。

予想では西ドイツの楽勝とみられていたが、西ドイツ選手は前夜開かれたスポーツ祭のパーティで遊びすぎ、宿舎に戻ったのが午前4時。スェーデン選手もこの催しに参加していたが、適当に切りあげて休養、この〝節制の差〟が試合にあらわれたといってよいだろう。

一般にドイツ人はよく飲むが、国際試合を前にこの乱行はいただけない。

試合は前半こそ西ドイツが18本のシュートの三分を一を決めて優位に立ったが、後半は疲れがれきぜん。スウェーデンの速攻にディフェンスを突破され1点差に追いあげられた。しかし西ドイツは23分アニタがインターセプトからの独走で愁眉をひらいた。ＧＫモニカの進境は著しいものがあった。

なお、昨冬流会となった第4回世界女子7人制選手権の復活が噂されている。

三月のＩＨＦ技術委員会で協議されるらしいともいうが、日本にもこのニューズは届いているだろうか。【馬場太郎氏は3月中旬帰国の予定】

Ｊ・Ｏ・Ｃで札幌の選手強化を審議

Ｊ・Ｏ・Ｏでは札幌オリンピックの選手強化の基礎ともなるべきコーチについての強化対策コーチ規程を審議していたが、決定を見た。これは札幌オリンピックだけでなく、同年に行なわれるミュンヘン・オリンピック関係の競技のコーチについても適用されるとのことである。

専任コーチ、兼任コーチなどにわけて規程が作製されている。

また、Ｊ・Ｏ・Ｃでは、ユニバシァード大会についても論議があったが、ハンドボールはこれに入っていないため、国際的にも入るよう努力することにした。

フランスの技術研究(17)

コーナースローも得点に

訳・藤　本　　強

前回はフリースローをとりあげた。特殊なケースの場合を巧く利用するのと、そうでないのとでは得点力は大きく違う。

先日の実業団選手権大会でも、大洋デパートはフリースローからのフォーメーションプレーを見せフリースローから得点をあげていた。これはもちろん、好選手をかかえていることもあるが、日頃の研究の賜であろう。

今回はフリースロー同様、試合中しばしば見られるコーナースローからの種々のフォーメーションの例を見てみることにする。

すでに男子の上位チームの間では、ゴールエリアにとびこんだ選手にパスを送るサインプレーなどがしばしば見られている。

これをいくつかのパスをつなぎノーマークを作りだす例である。

今日では、ゴールラインは20mが標準となっている。図は22mで描かれているが、ここに掲げた例はいずれも実行可能なものであろう。

コーナースローは直接、得点することができるが、ルールによって、ボールが手を離れるまで、足を離してはいけないという一項があるため、きわめて困難になっている。

そこで、いきおい、パスを入れ間接的にシュートする方法がとられることになる。

いくつかの例について見ていくことにするが、これはこれまで、何度も述べているように、あくまでも例であって、各チームはそれぞれのチームに応じたフォーメーションとそれからのバリエーションを確立すべきである。

☆　☆　☆

例1（第1図参照）

ゴールラインの狭いところでは特に有効なフォーメーションである。しかし、ゴールラインが広くても、十分に使い得る。

ごく単純なフォーメーションであるが、コーナースローの3m以内にディフェンスが入れないという利点を十二分にいかしたフォーメーションである。

A1はボールをもち、コーナーにたつ。A2はコーナーから、3mの所にたち、A1からのパスを受け、すぐにA2の方向に向って走ってくるA1にパスを返す。

A1はこのパスを受け、シュートする。もちろん、A1はエリアライン中央に向って、とびこみシュートを行なう。A2はパスをA1に送ったあとD1、D2を完全にブロックする。このフォーメーションを成功させる鍵はまず早さということになる。それとA1のシュート力になる。サイドラインが狭いところではきわめて有効である。というのはA2が1人で、幾人ものディフェンスをさえぎることができるからである。

例2（2図参照）

しばしば見られるいわゆるとびこみのフォーメーションである。

各選手はなるべく広く位置をとっていることが望ましい。それぞれが1人ずつのディフェンスをひきつけ、決っしてカバーができないようにしておく。

A2はまず左にフェイントをかけD2をふっておいてから、右に抜く、この瞬間にA1はゴールエリアの中にパスを入れる。A2はこれをキャッチし、とびこみシュートを行なう。

もし、A2がD2をふりきれずにA2の右側にD2がいた時にはA1はバウンドパスをA2に送る方法もある。

これをA2はキャッチし、左にたおれこむシュートを行なうか、左手でシュートをする。バウンドパスは充分に角度を考え、D2が一番カットしにくく、A2がシュートをうちやすい位置にパスを送るこがと望ましい。

これを成功させるかどうかは、A1のパス一つにかかっている。

例3（3図参照）

例1、例2はごく単純なパスでノーマークを作るフォーメーションであるが、この後に述べるのはいくつかのパスをつないで、ノーマークにしていくフォーメーションである。

A1はA3にパスを入れる。A2はパスが入る前に、まず右にフェイントをかけ、すぐ左に走る。D2はこれにつかざるを得ない。D1はD2とA2の動きによってブロックされる。

A3はパスをキャッチすると、まず左にフェイントをかけ右に動きD3を完全に自らの動きにつる

A1はパスを入れるとすぐに右に廻りこむように走りこみ、A2とA3の間でゴールの方向に向きをかえて、A3からバックハンドパスをされたボールを受けとり、ノーマークシュートをする。

他の3人は必ず、自分に一人ずつのディフェンスをひきつけておく。

このフォーメーションでは、A2、A3の動きとその後のブロックもしくはひきつけがフォーメーションの成否を握っている。A2A3は十分にフェイントをきかせD2、D3をひきつけて、動かすスピードが要求される。

例4（第4図参照）

これは例3のバリエーションである。ハンドボールのフォーメーションでは、これまで何回も説いてきたように、同じ形からいくつかのバリエーションをもっていることが望ましい。また同時にバリエーションは多ければ多いほど良いのである。

A1からA3にパスは入る。これは例3と同様である。

A3はボールをキャッチすると、まず右にフェイントをかけ、すぐ左に動き、D3をつり、D2とD1の動きもストップする。A2はA3にボールが渡った瞬間にA3の後に廻りこむようにして走りこみ、A3からのパスを受け、シュートする。

A4、A5、A6はそれぞれをマークしているD4、D5、D6がD3のカバーにいかないようにA2にボールが渡る直前に一斉に右に走る。

例5（5図参照）

例3、例4と同様の配置をとり例3、例4のバリエーションである。途中までは、例4と全く同じ動き、パスがなされ、そのあとで変化をしていくものである。

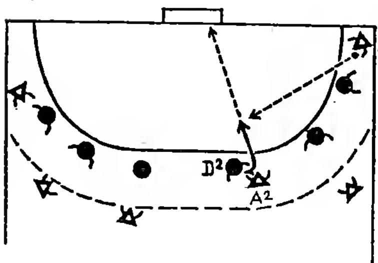
この途中まで、全く同じというのが、バリエーションの場合には重要となる。相手はどれをやるつもりなのか全く判らないので、たとえ一度体験しているフォーメーションでも対処のしように迷うからである。

A1からA3にパスは入る。A3は例4と同様に右にフェイントをかけてから、左に走りこみ、D3をひきつける。この直後にそれまでスタートをまっていたA2はA3からボールを受け、ドリブルで中央に入っていく。A2にボールが渡った後、A4は右にフェイントをかけながら、左に走りこみD4をひきつける。A5は左にフェイントをかけてから、右に走りD5をひきつける。

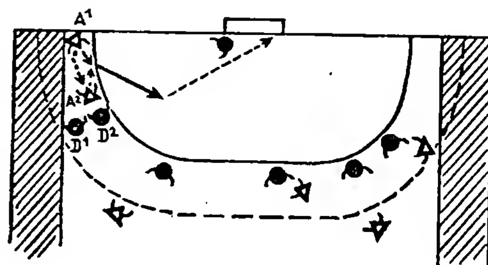
A6はA5とA4の動きの間につくられた守備のスキにとびこみA2からパスを受けシュートする

このフォーメーションでは、3ケ所にブロックプレーが見られることになり、サイドへサイドへ、ディフェンスを追いこみ、中央を広くあけるフォーメーションである最初のA3の動きが一番問題になろう。

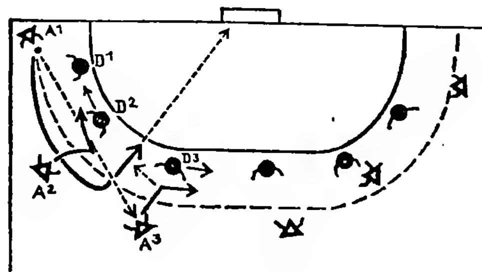
今回で一応特殊な形のフォーメーションをおわり、次回には、反撃速攻をもう一度とりあげ、攻撃フォーメーションの稿を閉じることとしたい。またこのシリーズももう二三回で終了する予定にしている。今後どのようなものをここでとりあげていくかは現在考慮中である。



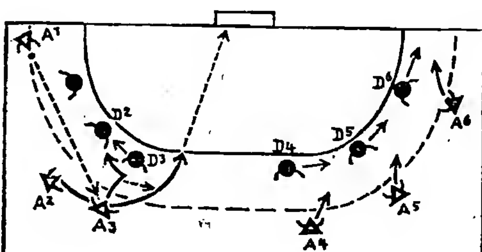
2



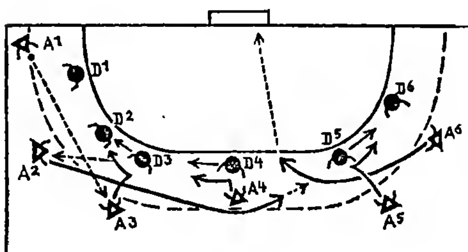
1



3



4



5

ハンドボールの歩み（第10回）

世界選手権総集編

ドイツ—北欧—東欧

世界選手権編 ⑩

これまで9回にわたり、男女の世界選手権大会の記録を中心にして、述べてきたが、今回は世界選手権大会編のしめくくりとして一応、11人制世界選手権の結果も見ながらもう一度、年代的にその推移を追ってみたい。

世界規模の最初の大会はベルリン・オリンピック

世界初の大規模な国際的な選手権大会は1936年のベルリン・オリンピックであった。これには6ケ国が参加し、ドイツが堂々と優勝している。試合はすべて大差がつき、レベルの差がいちぢるしかったことを物語っている。

ついで1938年の2月ベルリンで第1回の7人制の世界選手権が開かれている。ここでも、7人制の伝統のない、ドイツ、オーストリアの両国が急造チームで上位を占めた。

ついでその年の夏11人制の第1回世界選手権がベルリンその他で開催されている。ここでもドイツが圧倒的な強味を見せている。

戦前の大会はすべて、ドイツの圧倒的な力の前に各国はかすんでいたというのが実状であった。

復活IHFの最初の大会は11人制パリで

復活IHF最初の大会は、IHFの結成後2年でフランスのパリを中心にした地域で開催されている。この大会は戦後すぐであったので、ドイツは参加していない。

この頃は各国でまだ11人制が行なわれており、第二次大戦、7人制が中心であったが、ずっとハンドボールが続けられていた、北欧の諸国の活躍がめだった。

スウェーデンが優勝し、デンマークが二位を占めている。戦後の時期は北欧圏の一特にスウェーデンーの活躍がめだっている。

1952年には、第3回11人制選手権大会がスイスで開かれている。ドイツは1950年にIHFへの加盟が認められており、この大会へ参加し、統一ドイツチームとして出場している。この大会でも、スウェーデンは良く二位に喰いこんでいる。

1954年には、第2回男子7人制選手権が開かれ、スウェーデンがもち前の7人制の技術を駆使して、次の第3回大会と連続征覇している。

55年には、第4回の11人制選手権が西ドイツで開かれ、統一ドイツチームが連覇している。二位は11人制に力を入れているスイス三位には、1954年の第3回7人制選手権に続いて、チェコが入っている。東欧圏が力をつけはじめたことがそろそろ明らかになりはじめた。これがはっきりした形をとるのは翌年である。

女子第一回選手権は1956年西ドイツで

女子の第一回選手権は11人制で西ドイツで開催された。ここでは新興ルーマニアが破竹の勢いで進撃し、見事優勝をし、成長しつつある。東欧の力を示した。二位には、国際大会でこの後、あまり好成績をあげることのできていないドイツが入った。

翌57年には、7人制初の女子世界選手権がユーゴーで開かれた期待されたルーマニアは最下位におわったが、チェコが優勝、ハンガリーが二位、ユーゴーが三位と東欧圏が上位を独占し、東欧圏の力を示した。

58年には、男子の7人制の第3回大会が東ドイツで開かれている。スウェーデンが連覇したが、チェコが二位を占め。女子球界が抬頭した東欧圏で男子も続けとばかりに強化にのりだしてきたのがはっきりとしてきた。

1960年にはオランダで第2回の女子11人制選手権が開かれ、ルーマニアが連覇している。これによりハンドボールはルーマニアという声も生れてきた。女子11人制はこのあと行なわれていない。

61年には、ルーマニアが男子7人制のタイトルも得た。この大会二位はチェコ、三位はスウェーデンであった。これより先、59

年には、オーストリアで、男子11人制選手権が開かれ、統一ドイツチームが優勝をしているが、2位はルーマニアと、各大会上位チームの中に必ず、ルーマニアが入るようになってきた。

ルーマニア三冠王の偉業をなしとげる

女子11人制を1960年に、男子7人制を1961年にそれぞれ栄冠を獲得しているルーマニアは1962年に同国で開かれた、第2回女子7人制選手権のタイトルをも獲得し輝かしい三冠王の空前の記録を達成した。残る男子11人制も準優勝と望むべくもない大記録を樹立している。

東・西ドイツ 2チームとして出場 11人制衰退へ

第6回男子11人制世界選手権は1963年にスイスで開かれているが、1961年の第4回男子7人制選手権までは両ドイツ混成チームとして出場し、1962年の第2回女子7人制には、東西ドイツ間で代表決定戦を行ないドイツとして出場していたが、この大会はじめて、東・西ドイツはそれぞれの単独チームを大会に送っている。東ドイツが僅差で西ドイツを上廻り、東・西両ドイツが得意の11人制の栄冠を獲得している。すでに兆は現れていたがこの頃から11人制の人気は急速に衰えはじめ、世界選手権への参加チームもへっている。僅かに、6ケ国で開催される11人制選手権と、20ケ国以上参加する7人制選手権。世界の動きは大きく変りはじめた。

1964年には、男子の第5回7人制選手権大会がチェコで開かれ、ルーマニアが優勝し、7人制におけるスウェーデンについでの連覇をなしとげた。チェコは準決勝でルーマニアと当り、惜敗し、またも涙をのんだ。

65年には、西ドイツで女子の7人制第3回大会が開かれ、ハンガリー、ユーゴーと東欧の新興勢力が抬頭してきた。

66年には、11人制男子の第7回大会が行なわれ、西ドイツが前回の雪じょくをとげ、優勝。二位は東ドイツの結果となった。

男子7人制の第6回大会はスウェーデンで行なわれ、苦節十数年のチェコがやっとの思いで栄冠を獲得した。

現在のハンドボール界はソ連を含めた東欧圏を中心に廻っており西ドイツをはじめとする西欧圏の巻き返しが最近はじまったところである。

「訂正」本誌59号24頁、61号26頁のハンドボールの歩みはそれぞれ第8回、第9回の誤りでしたので訂正します。

世界選手権大会上位チーム一覧

7人制			11人制		
女子	優勝	2位	女子	優勝	2位
第1回(1957・ユーゴー)	チェコスロバキア	ハンガリー	第1回(1956・西ドイツ)	ルーマニア	ドイツ
第2回(1962・ルーマニア)	ルーマニア	デンマーク	第2回(1960・オランダ)	ルーマニア	オーストリア
第3回(1965・西ドイツ)	ハンガリー	ユーゴー	男子		
男子			オリンピック(1936・ドイツ)	ドイツ	
第1回(1938・ドイツ)	ドイツ	オーストリア	第1回(1938・ドイツ)	ドイツ	
第2回(1954・スウェーデン)	スウェーデン	ドイツ	第2回(1948・フランス)	スウェーデン	デンマーク
第3回(1958・東ドイツ)	スウェーデン	チェコスロバキア	第3回(1952・スイス)	ドイツ	スウェーデン
第4回(1961・西ドイツ)	ルーマニア	チェコスロバキア	第4回(1955・西ドイツ)	ドイツ	スイス
第5回(1964・チェコ)	ルーマニア	スェーデン	第5回(1959・オーストリア)	ドイス	ルーマニア
第6回(1967・スウェーデン)	チェコスロバキア	デンマーク	第6回(1963・スイス)	東ドイツ	西ドイツ
			第7回(1966・オーストリア)	西ドイツ	東ドイツ

※単にドイツとあるのは戦前はドイツ，戦後は統一ドイツチームを示す。

各地の記録

盛岡商友会が2連勝
女子も全和洋の連続

第5回東北総合室内選手権は1月25、26の両日秋田県立体育館に東北6県から男女各9チームの予選勝者を集めて開かれた。

男子は前年優勝の盛岡商友会（岩手）と、福島大を降して意気あがる湯沢高（秋田）の決勝になったが、盛岡商友会が攻守に一日の長を示し2連勝を飾った。

女子は、全和洋（秋田）が今年も秀れたチーム力を発揮して他をよせつけず2連勝を遂げた。

男女合わせて12の高校現役チームが出場したが、東北球界の拡充のためには一般、学生勢の奮起が望まれよう。

▽男子1回戦（1試合）
古川工OB(宮城) 9（4−0 5−7）7 大曲農高(秋田)
▽同準々決勝
盛岡商友会(岩手) 20（12−5 8−4）9 古川工OB
聖光学院工高(福島) 22（10−5 13−3）8 鰺ケ沢高(青森)
古川工高(宮城) 14（8−1 6−3）4 花巻北高(岩手)
湯沢高(秋田) 19（10−7 9−10）17 福島大(福島)
▽同準決勝
盛岡商友会 15（8−5 7−7）12 聖光学院工高
湯沢高 14（6−3 8−7）10 古川工高
▽同決勝
盛岡商友会 12（6−2 6−5）7 湯沢高
▽女子1回戦（1試合）
東北宗形製作所(福島) 11（5−0 6−3）3 古川女高(宮城)
▽同準々決勝
全和洋(秋田) 14（7−4 7−2）6 東北宗形製作所
岩手女高(岩手) 7（3−2 4−2）4 竹田女高(山形)
小高農高(福島) 9（4−2 5−6）8 全涌谷(宮城)
和洋女高(秋田) 10（3−2 7−1）3 花巻農高(岩手)
▽同準決勝
全和洋 5（3−1 2−0）1 岩手女高
小高農高 13（5−6 8−6）12 和洋女高
▽同決勝
全和洋 13（5−3 8−4）7 小高農高

寝屋川クが2連勝飾る

第10回大阪府室内選手権は1月5日から4日間大阪市立中央体育館と府立体育会館の両会場に男子11、女子3チームが参加して開かれた。

男子は寝屋川クと大商クが大接戦を演じた結果、寝屋川クが辛勝2年連続優勝を決めた。女子は攻撃力に秀れた大阪スターズが快勝初優勝を飾った。

▽男子準々決勝
大商ク 22−11 雪陵ク
三国丘ク 22−20 大淀ク
寝屋川ク 32−15 デンタルズ
大阪体大 20−12 大阪大
▽同準決勝
寝屋川ク 22−15 大阪体大
大商ク 21−8 三国丘ク
▽同決勝
寝屋川ク 18（7−6 11−11）17 大商ク
▽女子1回戦（1試合）
大谷ク 7−6 寝屋川ク
▽同決勝
大阪スターズ 10（3−1 7−2）3 大谷ク

添上、生駒に逆転勝ち

▼奈良県高校新人大会（1月・育英高）
▽男子準々決勝
生駒 14−4 奈良
奈良高専 12−6 桜井商
添上 21−8 十津川
畝傍 不戦勝
▽同準決勝
添上 15−3 奈良高専
生駒 18−6 畝傍
▽同決勝
添上 8（3−4 5−2）6 生駒
▽女子準決勝
十津川 9−5 生駒
添上 18−3 桜井商
▽同決勝
十津川 14（6−3 8−0）3 添上

真備、みごとな攻守

▼岡山県高校新人大会（1月・岡山県営体育館）
▽男子準々決勝
矢掛 13−7 津山
津山商 13−11 邑久
天城 14−9 津山工
倉敷商 12−9 倉敷工
▽同準決勝
矢掛 16−14 津山商
天城 11−9 倉敷商
▽同決勝
天城 17（8−4 9−7）11 矢掛
▽女子準々決勝
西大寺 12−6 青陵
井原 7−6 津山商
真備 24−6 津山
落合 18−2 金川
▽同準決勝
西大寺 6−2 井原
真備 13−4 落合
▽同決勝
真備 21（14−2 7−4）6 西大寺

一般は、岡山ク勝つ

▼岡山県冬季一般男子選手権（1月・岡山大）
▽1回戦（2試合）
岡山教員 23−17 倉敷工OB
岡山ク 22−12 岡山工OB
▽準決勝
岡山教員 26−14 山陽新聞社
岡山ク 33−14 関西高OB
▽決勝
岡山ク 18（7−9 11−6）15 岡山教員

中京ク、全勝飾る

▼第6回愛知クラブリーグ（11月金山体育館）＝男子のみ
▽1部
中京ク 29−12 向陽ク
上野ク 不戦勝 愛工ク
桜丘会 39−13 愛工ク
愛工ク 19−18 東杏会
上野ク 22−14 向陽ク
東杏会 25−12 向陽ク
愛工ク 19−16 向陽ク
桜丘会 24−7 東杏会
中京ク 42−5 東杏会
桜丘会 23−17 上野ク
桜丘会 30−11 向陽ク
中京ク 25−11 愛工ク
中京ク 25−14 上野ク
上野ク 25−14 東杏会
中京ク 27−19 桜丘会

【順位】①中京ク5戦全勝②桜丘会4勝1敗③上野ク3勝2敗④愛工ク⑤東杏会⑥向陽ク

▽2部7位決定戦
昭和ク 不戦勝 東山ク
▽同5位決定戦
南山ク 30−6 一宮ク
▽同3位決定戦
名大ク 19−13 中川ク
▽同優勝戦
愛教ク 21−17 尾北ク

新居浜勢が男女制す

▼愛媛県高校新人大会（1月・今治市）

▽男子準々決勝

松山北 16−8 新田

今治西 14−12 松山商

新居浜工 20−7 松山東

今治工 10（分）10 松山工

抽せんで今治工の勝ち

▽同準決勝

松山北 15−1 今治工

新居浜工 17−3 今治西

▽同決勝

新居浜工 14（10−1、4−2）3 松山北

▽女子準々決勝

松山商 20−8 今治明徳

新居浜西 11−5 今治西

土居 11−4 東温

新居浜商 14−3 今治南

▽同準決勝

松山商 3−1 新居浜西

新居浜商 9−3 土居

▽同決勝

新居浜商 13（5−2、8−1）3 松山商

宮城でハンドボール祭

▼第4回宮城県ハンドボール祭＝宮城協会20周年記念大会（1月19日・宮城県営スポーツセンター）

超OB 16−13 県協会役員

学生選抜 20（8−5、12−9）14 県高校選抜（男）

高校女子西軍 10（5−5、5−4）9 高校女子東軍

一般選抜（男） 21（9−10、12−6）16 宮城教員

OG、現役とも大分東

▼第8回大分県室内選手権（1月・大分東高体育館）

▽一般男子1回戦（1試合）

大分教員ク 23−17 大商ク

▽同準決勝

大分東高ク 20−18 鶴崎工OB

大竜会 25−24 大分教員ク

▽同決勝

大竜会 19（9−5、10−9）14 大分東高ク

▽同女子準決勝（＝1回戦）

玖珠農ク 15−0 青山OG

大分東OG 7−3 臼杵ク

▽同決勝

大分東OG 10（6−4、4−3）7 玖珠農ク

▽高校男子決勝リーグ

大分商 16−9 大分東

大分東 11−10 鶴崎工1年

鶴崎工 20−3 大分商

鶴崎工 19−6 大分東

大分商 8−6 鶴崎工1年

鶴崎工 17−4 鶴崎工1年

【順位】①鶴崎工②大分商③大分東④鶴崎工1年

▽同女子決勝リーグ

大分東 12−3 大分商

大分東 10−1 青山

青山 7−3 大分商

【順位】①大分東②青山③大分商

男女とも若狭が優勝

▼福井県高校新人大会（1月・羽水高）

▽男子準々決勝

若狭 28−7 敦賀工

福井商 16−4 高志

羽水 12−11 藤島

武生商 不戦勝

▽同準決勝

若狭 12−8 福井商

羽水 13−7 武生商

▽同決勝

若狭 10（5−5、4−4、…1−0）9 羽水

▽女子決勝リーグ

羽水 4（分）4 藤島

福井商 6−2 武生商

若狭 15−2 羽水

福井商 14−5 藤島

若狭 17−6 武生商

福井商 9−4 羽水

若狭 8−3 藤島

羽水 8−2 武生商

若狭 4−3 福井商

藤島 11−1 武生商

【順位】①若狭4戦全勝②福井商3勝1敗③羽水・藤島1勝1分2敗

国学院栃木、秀れた攻撃

▼栃木県高校新人大会（2月・国学院体育館）

▽男子準々決勝

国学院栃木 17−9 宇都宮工

馬頭 32−12 鳥山

足利商 17−11 石橋

足利 11−7 足利工

▽同準決勝

国学院栃木 25−14 馬頭

足利 9−5 足利商

▽同3位決定戦

足利商 19−14 馬頭

▽同決勝

国学院栃木 17（9−1、8−8）9 足利

▽女子1回戦（1試合）

小山城南 31−0 足利商

▽同準決勝

国学院栃木 12−1 足利女子

栃木女 12−7 小山城南

▽同3位決定戦

小山城南 17−7 足利女子

▽同決勝

栃木女 5（2−1、3−1）1 国学院栃木

女子で抜群の小諸商

▼第8回長野県総合室内選手権（2月・佐久市）

▽男子準々決勝

北農高A 17−11 本州大

長野教員 26−22 坂城高

北農ク 20−6 上田高

上田ク 15−13 北農高A

▽同準決勝

北農高A 15−14 長野教員

上田ク 23−12 北農ク

▽同決勝

上田ク 24（14−5、10−11）16 北農高A

▽女子準々決勝

小諸商A 20−6 上田城南高

佐久高 16−7 篠ノ井高

小諸商B 20−9 佐久ク

小諸商ク 9−8 北農高

▽同準決勝

小諸商A 18−2 佐久高

小諸商B 9−7 小諸商ク

▽同決勝

小諸商A 15（8−1、7−1）2 小諸商B

編集後記

今年度もすべての大きな行事はおわり、あとは、3月16日に予定されている理事会を残すだけになりました。

重大ニュースを扱ってみますと他の社会状勢を反映するためか、実に破乱の多い一年でした。

空席であった会長の席に田村正衛会長を迎え、大きな期待と希望をもってスタートする44年度がすべての順調にいくように願ってやみません。

ここ一、二年のハンドボール界は大きな転機に立たされているのです。今後の斯界はここの一・二年にかかっているといってもいいすぎではありません。

日本のハンドボール界の発展ということをまず第一に考え、少さなことにこただわらず、ハンドボール愛好者全員が一致して、進むべきでしょう。

今後の機関誌をこの線にそって進めていきたいと思っています。

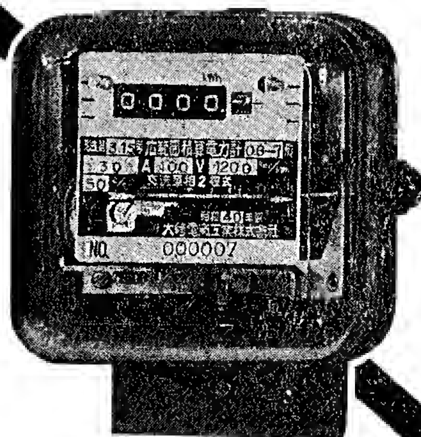
（TF）

Osaki

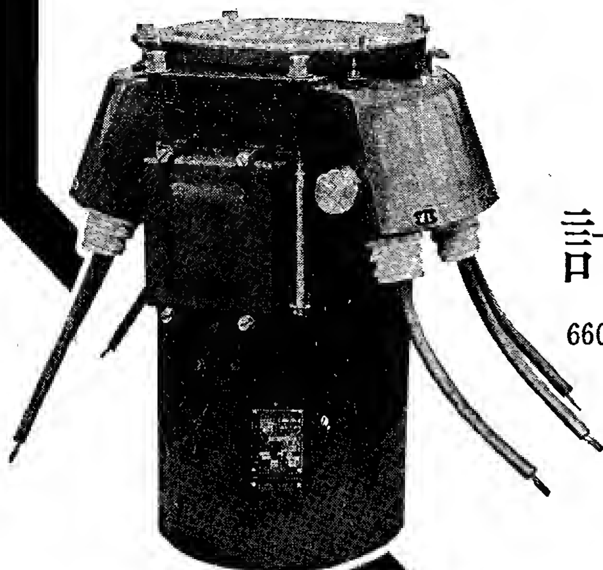
最高の確度と信頼度を持つ

電力量計

単相用	OB－7形
3相用	OW－7形
精密用	OP－3形



OB－7形広範囲単相積算電力計



計器用変成器

6600V用重予型PCT　PDN形

主要製品

電力量計・電流制限器
計器用変成器・電圧調整器
配電盤・分電盤・制御盤



大崎電氣工業株式會社

本社・五反田工場　東京都品川区東五反田2－2－7　電話東京（443）7171代表
蒲田工場　東京都大田区多摩川2－8－1　電話東京（732）6511代表
埼玉工場　埼玉県入間郡三芳村大字藤久保　電話0492－61－1205

日本ハンドボール協会編
ハンドボール 第六十二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 昭和四十四年二月二十五日印刷 昭和四十四年三月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会 東京都渋谷区神南町二五 電話 大代表(467)三一一一 振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）